

第 3 回 館 山 市 議 会 定 例 会 会 議 録

(第 2 号)

1 平成4年9月16日(水曜日)午前10時

1 館山市役所議場

1 出席議員 27名

1 番 秋山 光章	2 番 増田 基彦
3 番 島田 保	4 番 斉藤 実
5 番 宮沢 治海	6 番 植木 馨
7 番 鈴木 順子	8 番 永井 龍平
9 番 脇田 安保	10 番 庄司二三男
11 番 山崎 雅己	12 番 岩村 勝弘
13 番 榎本 春光	14 番 小宮 利夫
15 番 山中金治郎	16 番 鈴木 勝美
17 番 鈴木 忠夫	18 番 日下 君敏
19 番 川名 正二	20 番 生稻 陞
21 番 神田 守隆	22 番 福原 勤
23 番 石井 昌治	25 番 流山源次郎
26 番 辻田 実	27 番 横溝 功
28 番 飯田 義男	

1 欠席議員 なし

1 出席説明員

市 長 庄司 厚	助 役 小幡 清之
収 入 役 川上 義雄	市長公室長 永野 修
総 務 部 長 斉藤 賢司	民 生 部 長 佐藤 澄雄
経 済 部 長 小沼 晃	建 設 部 長 伊東 衛
水 道 課 長 鈴木 信一	教 育 委 員 会 長 福原 修

1 出席事務局職員

事 務 局 長 兵藤 恭一	事 務 局 長 補 佐 土橋 康彦
書 記 鈴木 哲	書 記 鈴木 修一
書 記 松浮 郁夏	

1 議事日程（第2号）

平成4年9月16日午前10時開議

日程第1 行政一般通告質問

開 議 午前10時01分

◎議長（福原 勤君） 本日の出席議員数27名、これより第3回市議会定例会第2日目の会議を開きます。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行います。

行政一般通告質問

◎議長（福原 勤君） 日程第1、これより通告による行政一般質問を行います。

締め切り日の9月9日正午までに提出のありました議員、要旨及びその順序はお手元に配付のとおりであります。

これより順次質問を行います。

この際申し上げます。通告質問者は以上のとおりであり、他に関連質問等の発言もあろうかと思いますが、本日は通告者のみといたします。発言の方法は、最初の発言を20分以内とし、執行当局の答弁は時間外、再質問は答弁を含めて30分以内といたします。

これより順次発言を願います。

21番議員神田守隆君。御登壇願います。

（21番議員神田守隆君登壇）

◎21番（神田守隆君） 既に通告をいたしました6点についてお尋ねをいたします。

まず第1点は、在宅福祉の充実と老人保健福祉計画の策定についてであります。国は、消費税導入の際に、これは福祉の財源とするためだとしてゴールドプランの名のもとに、在宅福祉の施策を大幅に充実することを約束していました。消費税導入の理由としては、問題のあるものでありますが、しかしその動機はどうであれ、在宅福祉の水準を抜本的に引き上げることは差し

迫った重要課題であります。

我が党は、力を合わせ長寿社会を支える地域づくりを、在宅福祉の抜本的な充実のためにという政策を発表いたしました。この中では体が不自由になっても住みなれた家、住みなれた土地で老後を送りたいというのは高齢者の願いであり、家族の願いでもあります。既に全国各地でこの願いに応えて、さまざまな立派な在宅福祉が実施されています。これらの経験に学び、住民と行政が力を合わせていけば飛躍的に充実させることも可能であると指摘しているところであります。この在宅福祉の計画は、国が全国一律に行おうというものではなく、各市町村がその実情に応じて計画を立てる各市町村の老人保健福祉計画として検討が進められています。この計画策定の前提として調査が始まりますが、問題はこの調査が本当に高齢者の方々の要望を反映したものになるのかどうかという点であります。できるだけたくさんの方々から、正確にその置かれた状況や要望のあり方をとらえなければなりません。既に館山市の65歳以上の高齢者の占める割合は、約20％となりました。今後ますますこの割合は高くなっていきます。それだけに、この老人保健福祉計画の策定は、館山市政の上でも中心的な課題ではないかと思うのであります。各市町村ともこの計画の策定をどのように進めるのかということが論議されておりますが、市長はこの老人福祉計画を市政の中でどのように考え、その調査をどのように進めようとしているのかお聞かせをいただきたいと思えます。

次に、厚生省の老人保健福祉計画についての6月30日付の通知では、在宅老人福祉の中核を担うホームヘルプの必要量の把握について、対象者掛ける訪問頻度掛ける必要度という数式を示しておりますが、この数式自体からも訪問頻度を3回とするか、6回とするかは市町村の裁量ですし、必要度の係数も市町村の裁量で決まります。つまり、どのような在宅福祉の水準を目標とするのかという市自身の考え方が決定的に重要な意味を持つこととなります。この目標の設定の内容によってホームヘルパーの必要量も決定的に変わってくるのが考えられるのであります。ホームヘルパーの必要量をどのように考えているのかお聞かせいただきたいと思えます。

次に、給食サービスについてお尋ねをいたします。厚生省の老人保健福祉計画についての通知では、住宅のリフォーム、電動ベッドや車いす等の介護機器等の給付等、訪問食事サービス等の日常生活支援が有効であることは明らかである。老人保健福祉計画においては、これらの事業について盛り込むことが望ましいと、食事サービスを望ましい事業としてとらえています。この食事サービスについては、既に実施しているところの実例なども紹介し、市でも検討するように、これまでもたびたびこの質問の中でも取り上げてきたところであります。日常生活援護としての食事サービス事業をこの保健福祉計画の中で位置づけて検討するかどうか、市自身の判断が求められるところであります。どのようにお考えなのかお聞かせをいただきたいと思います。

次に、大きな第2点であります。年金相談日の回数を現行の月1回をふやすことはできないかどうかお伺いをいたします。

先日、ことし65歳になられた方ですが、娘時代に勤めたときの年金の積み立て期間が社会保険事務所で調べてもらったところ、5年ほどの年金期間があることがわかった。裁定請求をしたところ、年間約20万円の年金ということで、過去5年間の分として100万円をもらえることになったと大変喜んでおりました。現在の年金受給者の10人のうち1人は、こうした年金の請求漏れがあると言われています。年金の裁定請求に当たって、過去の職歴をその期間が年金に加入していたのかどうか丹念に調べておくことが必要となります。新たにそうした期間を見つけ出すことができれば、必ず年金の額をふやすことにつながります。年金は、裁定請求のときにこうした手続をちゃんとしていれば請求漏れということはなくなるのでありますが、年金はあくまでも申請に基づいて審査する建前になっているために、申請のときに漏れてしまえばその分の年金はもらえないのであります。知らなければそれだけ損することになってしまうのであります。せっかくの年金が請求漏れのためにももらえないなどということは、できるだけなくさなければならないと思うのであります。

現在、木更津社会保険事務所から係官が来て、市役所で年金相談会を月に

1 回行っているわけでありますが、過日私もこの年金相談会に参加することがありましたが、相談者の方の数が大変多いことに驚きました。こんなにたくさんの方の相談があるとすれば、後の人のこともあってなかなか落ちついて自分の年金について相談することはできません。かつては、市の年金相談会も月に一度ではなく、毎週行われていたように思うのでありますが、市はこの相談会の回数をふやすよう関係機関に働きかけていく考えはございませんか、お聞かせをいただきたいと思います。

次に、第3点目、古紙価格の下落と紙ごみのリサイクル体制についてお尋ねをいたします。最近、古紙の価格が景気の後退という中で低迷しております。古紙の引き取り価格がキロ1、2円ということでは、古紙の回収業者もこのままでは引き取れば引き取るほど赤字になりかねないという状況であります。古紙のリサイクル体制が存立し得ないのではないかと考えるのであります。こうした状況は、短期的に解消するとは考えられません。

市の紙ごみ回収は、民間回収業者の協力のもとに昨年は年間730本という大変な量の紙ごみを回収してまいりました。この紙ごみを焼却ごみとして処分しない直接の影響としても、市の焼却費用等の節約は、いろいろな見方がありますが、およそ1,000万円にもなるのではないかと考えるのであります。古紙の買い取り価格が高くなれば問題はありますが、価格が下がったままの状況が長く続いたりしていますので、業者に対して一定の価格を市で保障するなどして業者の保護も考える必要があるのではないのでしょうか。そのことがまた業者の不安をなくし、古紙回収事業を円滑に進めていくことになります。紙ごみのリサイクルの体制を維持する上で、市はこうした民間回収業者の保護について、どのように考えておりますか、お聞かせをいただきたいと思います。

次は、第4点目、鋸南道路の完成及び供用見込みの問題についてであります。国道127号線は、浜金谷のフェリー乗り場を起点として10数キロもの大渋滞となることがあります。フェリー待ちの車が待機場からあふれ、国道にまで出てくるために国道で数珠つなぎとなり、そのためそれ以外の車も前に進むことができなくなり、大渋滞となるのであります。このフェリー乗り場

を迂回する道路がどうしても必要かと思うのであります。現在、この金谷のフェリー乗り場を迂回するように、東関東自動車道館山線のうち鋸南道路部分の工事が進んでおります。この鋸南道路とそれに接続する金谷道路の一部が完成すれば、このフェリー乗り場を迂回する道路として利用することが期待できます。

そこで、お尋ねするわけでありましたが、この鋸南道路の完成見込みはどうなっているのか。また、その供用については、その部分の完成次第、部分的にでも供用すべきと思うのでありますが、どのように考えておられるのかお聞かせをいただきたいと思います。

次に、第5点目、那古下水路の浄化施設設置の問題についてお尋ねをいたします。那古地区には、那古下水路のほかに生活雑排水の流れている小河川が2本あり、那古下水路の浄化施設の設置に当たっては、これら排水路の浄化もあわせて行うものを設置するのが、海や河川の浄化には効果的ではないかと思うのであります。市の5カ年計画では、来年度那古下水路の浄化施設を設置することになっておりますが、この計画では3排水路を同時に処理するものとして検討すべきではないかと思うのでありますが、市はいかがお考えでありますか。

次に、第6点目、仮称「館山リゾートマンション」についてお尋ねをいたします。仮称「館山リゾートマンション」は、去年の6月に建築確認が下ろされましたが、長期にわたって工事が行われていません。去年の7月から、千葉県建築条例の一部改定が実施されましたが、この新条例が適用となれば、建物周囲に一定の避難用の空地の設置が義務づけられましたが、この規定に違反する違法建築物となります。問題は、この新条例の適用がなされるのかどうかということにありました。新条例実施のときに、既に建築工事中の建物にはこの新条例は適用されませんが、工事が実施されていなかったり、またされていたとしてもその後工事が中断したりした場合は、やはり新条例が適用となります。この仮称「館山リゾートマンション」は、建築確認がおろされて既に1年が経過しましたが、この1年間にわたって全く工事が実施されてきませんでした。したがって、既にこの建築確認は事実上無効であり、

これから着手する建築工事は違法であります。この違法な工事のために、実際に日影の被害が及ぼされるのは市営住宅であり、その点では居住者はもちろん、市自身が被害者となります。

そこで、お尋ねするわけではありますが、既に1年余にわたって工事が実施されず、事実上放置されていますが、この建築については新条例に基づく新たな建築確認が必要だと思うのでありますが、市はいかがお考えでありますか。

以上、6点にわたってお尋ねをいたしました。御答弁によりまして再質問をさせていただきます。

◎議長（福原 勲君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの神田議員の御質問にお答えいたします。

大きな第1、在宅福祉の充実と老人保健福祉計画の策定についての御質問でございますが、計画策定の進め方につきましては、国から示されました市町村老人保健福祉計画作成指針に基づきまして、平成4年度に実態調査を行い、平成5年度に計画策定の予定となっております。計画策定についての実態調査は、一般高齢者については、対象者2,000人を抽出し、行政区担当職員を調査員として個別に聞き取り調査を行う予定でございます。

寝たきり老人、痴呆性老人につきましては、プライバシー保護の問題や計画の重要性を広く理解していただくため、地域の実情に詳しい民生委員による悉皆調査を行う予定でございます。

これらの調査結果を分析しまして、計画を策定してまいります。したがいまして、ホームヘルパー及び給食サービスの目標量につきましても、実態調査の結果を踏まえ、検討してまいりたいと考えております。

次に、大きな第2、年金相談日の回数を現行の月1回をふやすことについての御質問でございますが、年金相談は厚生年金関係について、木更津社会保険事務所が住民サービスの一環として、安房郡市内では館山市、鴨川市、千倉町の3カ所を会場として館山市、鴨川市で月1回、千倉町で2カ月に1回の割合で開催しております。

館山市の会場での相談内容といたしましては、老齢厚生年金等の申請受け付けが主なもので、件数は平成2年度 673件、3年度 737件と増加傾向にございます。実施回数につきまして、回数の増を打診しましたところ、人員配置の関係から困難と伺っておりますが、引き続き要望してまいりたいと考えております。

次に、大きな第3、古紙価格の下落と紙ごみのリサイクル体制についての御質問でございますが、古紙の回収事業は現在の方法で実施しまして、回収業者への助成は古紙価格の動向を見きわめながら、対処してまいりたいと考えております。

次に、大きな第4、鋸南道路の完成及び供用見込みについての御質問でございますが、鋸南、金谷道路とも90数%の用地が取得されており、現在トンネル、橋梁等の工事也大々的に進められております。

完成及び供用の見込みでございますが、東京湾横断道路の完成に合わせての全線供用を目標に、国、県等の関係機関に強く要望をしているところでございます。

なお、部分供用につきましては、その状況によって供用開始する方向で検討中であると建設省から伺っておりますが、今後とも早期に部分供用ができますよう、より一層の働きかけを行ってまいりたいと考えております。

次に、大きな第5、那古下水路の浄化施設設置についての御質問でございますが、現在対象の排水路、施設規模、工事費、建設用地等について検討中のところでございます。

次に、大きな第6、仮称「館山リゾートマンション」について御質問でございますが、御指摘のマンションにつきましては、平成3年6月24日付で建築確認がなされたものでございます。工事の進捗状況につきましては、県が必要に応じ、調査、指導等を行うと伺っております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） 老人保健福祉計画の関係でありますけれども、これから調査をするということで、2,000人ということですから、65歳の方の

大体5分の1ぐらいの規模で、5人に1人ぐらいの規模で進めようということかと思うのですが、市の職員がこれだけのことをやるとなると、大変な仕事だろうと思うのですが、非常に市の職員がこれだけのことをやるということになれば、文字どおり大規模な調査ということで、市の中でも相当重要な課題だという位置づけをしなけりゃできないと思うのでありますが、具体的に市の職員はどのぐらいこれにかかわって参加をしようとするものなのか、お聞かせをいただきたい。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 館山市の特別な施策の1つとして行政区担当職員がいるわけでございます。160町内に230人ぐらいの職員が、それぞれ担当を持ってやっているわけでございますが、この職員をお願いいたしまして、今回の一般老人用の2,000人に対する調査、聞き込み調査等を行っていきたい。これについては、議員さんおっしゃるとおり大変な事業でございます。これにつきましても、担当課を中心といたしまして、行政区担当職員にいわゆる研修を行いまして、この調査の目的とかそういうことを知っていただき、知識を得ていただいて実際に調査に当たっていただく、こういう計画でございます。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） 一応、市がかなり重点的な問題としてこの事業を考えているのだということで理解をしたいと思うのですが、この計画策定に当たって住民団体とか、高齢者の方の団体ですとか、住民のそうした意見が反映されたものにしなきゃならぬということが重要なポイントだろうと思うので、市が進めるというばかりでなくて、率直にいろいろな高齢者の方々の意見も聞いていくということは考えているのかどうか、いかがですか。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 国の方針といいますか、指針、指導に基づきましてこの館山市でも――これは全国レベルでそういう形になっているわけでございますけれども、策定に関する住民の意見を聞く場、組織、こういうも

のをつくっていくことになっております。いわゆる懇話会的なものをつくっていく。そのメンバー等は国からある程度指示があるわけですが、これについても館山市で実施していきたいというふうに考えております。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） そうした調査を踏まえてホームヘルパーの数をどのくらい必要かとか、あるいはデイセンターなり、ショートステイとかそういう施設をどういうふうに、どのくらいの数が必要かという、その必要量というのを判定していこうという、そういうことになるかと思うのですが、問題は目標をどういうふうに考えるかということなのですがね、例えばこのゴールドプランの中でも、こうした目標ということで寝たきりをなくすんだと、寝たきりゼロ作戦というふうなことを言っているわけなのです。

海の向こうの川崎市では、計画の策定の基本的な方向ということで、寝たきりにしない、寝かせきりにしない、こういう目標に向けて具体的な施策の前進をしなきゃならぬという、こういう市の方針を打ち出しているのです。市はこういう点で、この計画の策定に当たっては、基本的には寝たきりをなくしていくんだ、寝たきりゼロ作戦ということでこの目標を立てるんだ、こういうふうに考えているのかどうか。その辺いかがですか。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） この寝たきりの問題につきましては、あくまでも厚生省で寝たきり老人のゼロ作戦を推進して現在いるわけですが。そういうことで、私どもも寝たきりがなくなるようなそういう施策を基本的には考えております。具体的には、ただいま議員さんがおっしゃいましたけれども、他の先進地等を見ましてゼロになるように計画をニーズによって作成していきたいというふうに考えております。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） 今寝たきりは、館山では124人いると——お年寄りがです。こういう具体的な数字が示されて、せんだってNHKのテレビなんかでもやっていましたけれども、あなたの町では寝たきりはふえますか、減りますかという見通しでいろんな色分けしてはいましたけれども、館山市に

も照会があったんだろうと。私テレビよく見たけども、赤色だったかよく色がわかんなかったんですけれども、館山市はこの124人という寝たきりを実際に一気にゼロというふうにはなかなか難しい問題もありますけれども、市の施策の結果、相当減らすことができるということで考えておりますか。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 先般のマスコミのテレビ等も拝見いたしましたけれども、赤いマークが約45%くらいありましたか、3,300の中に。ただ、グリーン等減らすことができるという部分も、また40%程度あったかに思います。私どもは、少なくとも減らすことができる、ゼロ作戦でいく、そういう信念を持ってこの計画に当たりたいと基本的には考えております。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） ホームヘルパーさんの問題ですけれども、従来家事サービスというのが非常にウエートは中心ということから、介護サービス、これを中心にしていかなきゃならぬだろう。したがって、ヘルパーさんの業務内容というものも専門性なり、非常に高度化していくという問題があるかどうかと思うんですが、そこで市はそうやって減らすことができるということでお考えでしたら、そういうふうにやってほしいなと思うことがあるんです。と申しますのは、現在市の条例で派遣の対象についてはどういうふうになっているのかというと、市の条例では「その家族が介護を行えない状況にある場合」という、こういう規定になっていますね。これは既に各地で改定されて、「老人またはその家族が老人の介護サービスを必要とする場合」、こういうふうに改められているんです。館山市はこれを改めてないんですよ。介護を行えない。家族がいて家族が見れる場合には派遣対象にならないと、こういう考え方をとっているわけです。これは、やっぱり今そういうことではこのゼロ作戦というような問題を考えた場合には、これは派遣対象の問題からいって非常にそれを狭めるものになるという点で、これはもう既に各地で検討がされて、国からもそういう指導もあると思うのですが、いかがですか。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 規則の中で、改正がされていないんじゃないか

というような御指摘でございます。今ちょっとそれを調査をしてございますけれども、現実の問題といたしましては、各必要な介護を——ホームヘルプを必要とする家庭に実際には行っておるわけでございます。そういうことで、今度もこの計画にのっとりまして調査し、調査されたニーズによって、ホームヘルプサービス事業も実施していきたいというふうに考えております。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） 例えば寝たきりの方は館山では124人いる、こういう数字があった中で、ホームヘルパーが派遣されているというのはこのうち実際には何件あるのか、いかがですか。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 身障と寝たきり老人合わせまして35ケースあると思います。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） この今のこれからホームヘルパーの必要度の問題議論する場合も、ここで基本的な考え方として家族が介護を行えない状況にあるという、こういう考え方で必要度を考えれば、これはなかなか出てこない。しかし、そういう中でも介護サービスを必要とするという、こういうことがあればそれにもうすぐ応えるんだというふうに間口大きく広げれば、需要がぐっとふえてくるはずなんです。ですから、今実際に124人という寝たきりの方がいて、そうすると35ケースを派遣している——これは家族で介護行えない状況にあるからだ。しかし、残りの方の中で介護サービスを必要とするということがあれば、そういう規定を緩めれば、どんどん派遣の対象になり得る要素を持ってくるわけです。そういう点から、これは早急に条例上——運用ではそうしているよということも市の方としては言うんでしょうけれども、こういう規定は運用がそういうふうになっているんだとすれば、一刻も早く変えなきゃいけないんじゃないかと思うんですが、いかがですか。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） そのように思いますんで、そういうような形にいたしたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） このホームヘルパーの必要量、どれくらいの必要が実際にあるのかという、その判定を市自身がこの老人保健福祉計画の中でしていくわけです。そのときに寝たきりの介護を必要とするというので、国が言っているのは週3回乃至6回というような指標を示しているわけですが、いわゆる介護という面から見ますと、必ずしも一日1回というようなことではなくて一日に2回も3回も必要なケースも出てくるわけです。ですから、そういう3回とか6回とかという決め方自身ちょっと問題はあるなと思っていますんですが、それにしても3回にするか6回にするかによって、市がホームヘルパーの派遣をどういうふうに介護に関して考えるかという — それは介護の水準ですね、館山市が行おうとする介護の水準をある意味じゃ決めますから。そうすると3回という設定か6回という設定か、これによって実際のホームヘルパーさんの必要量というのは大きく変わるわけです。その辺はどういうふうに考えておられるのか。そして、さらにまたそれに掛ける数ということで、市自身が必要度というような問題があるんですけれども、その割合というものを市自身はどういうふうに設定をしようとするのか、どういう要素を勘案しようとしているのか、その辺お聞かせいただきたいなと思うんですが。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） この今回の福祉計画の中の調査段階でのサービスの目標でございますけれども、これは例えばホームヘルプサービスにつきましては、今御指摘のように国の指針、指導は週3回から6回までのうち当該市町村で定める数ということ。それにあわせて、要介護老人のサービスの必要性を勘案して当該市町村が定める割合という、この割合が入ってくるわけでございます。これは、どういうことかといいますと、やはりその市町村の需要に応じた — いわゆるニーズに応じたものでこの割合を決めていきなさいよということでございますんで、これはいわゆるこのニーズ調査によりまして、ある程度市町村が決めていくという結果になろうかと思います。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） 回数もですか。回数はどういうふうを決めるんですか。それは、市が介護に関してはどういう水準のものをしようとするかという市自身の考え方がまず問われなきゃならない。むしろ中途半端な数だと要らない。毎日来てくれるんならばぜひお願いしたいけれどもということだってあり得るんです。3回と6回じゃえらい違うわけです。3回じゃとてもじゃないけどもしようがない、これじゃうちでやるんだったらばもう施設に入れてもらうしかありませんということだってあるわけです。だから、市の水準をどういうことで在宅福祉の水準をもって考えるかということが大事であらう思うんです。限りなく3に近いところで考えているんですか。限りなく6に近いところで考えているんですか。いずれですか。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） この国で指導する3回から6回の数字でございます。これはやはり全国的にこの3回から6回という数字を決めているわけでございますが、これについてはやはり館山市で何回なのか、そういうものをやはり決めていかなくちゃいけないわけですが。ただ、これは実際のニーズといいますかね、そういうものを踏まえながら、またもう一方では県とかそういう——いわゆる役割、地域の中の格差をなくしていくんだという県の計画の中での使命があるわけでございますので、そこらといろいろ協議しながら、また市町村間の協議をしながら、館山市では何回にするかというようなことも、そういうことも考えていかなければならないというふうに考えております。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） 他町村との調整という問題、そういうふうにするものじゃないと思うんですけれどもね。館山市が、じゃ周りの町村なりが週3回にしたから館山市は6回できないという、そういう議論が成り立ち得るということですか。これは市自身が決めることじゃないというふうに考えているんですか。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） そういうことじゃなくて、館山市で3回を決め

るんですけれども、その決め方の中にいわゆる参考部分としてそういう県や近隣の市町村の回数等も、そういうものを参考にして決めていくと、そういうのも必要じゃないかということでございます。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） 基本的に人間の暮らしというのは、毎日の暮らしがあるわけで、寝たきりの方の生活を保障する。介護というのは、そうしたハンディキャップを行政が支えていこうということだろうと思うのです。とすれば、これは基本的には毎日なんです。食事のことあるいは排便のこと、こういう援助をしていこう。床ずれができないようにしていこう、そういうことをヘルパーさんがやろうということでしょう。食事は毎日ありますし、排便も毎日ありますよ。家族がやれる日は、それでやらしてもらおうということもあろうかと思うんですが、基本的には週6回というよりも毎日だ、そういうところから出発するべきではないかなと思うんです。だから、6回ということに対しては、これは少なくとも6回は必要だろう。一日2回必要だとか3回必要だというケースも随分出てくるんです。だから、今3回なんて話が出ましたけれども、これは極めて例外的なことで、むしろ館山市はこうした福祉の水準としては国で示しているもので、これの中では最高の水準を考えていきたいんだというようなことで御検討いただきたいなと思うんです。実際には、この国の水準でも大変問題があるんですけれども、しかし少なくともそれくらいのことは考えていただきたいなと思うんですが、いかがですか。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） いろいろ市としても、これから決めていかなければならないわけですので、議員さんのそういう意見も参考にしながら検討していきたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） 給食サービスの関係でありますけれども、これはこれまでたびたび言ってきたことでありますけれども、この中で、老人保健福祉計画の中で位置づけをして検討をするというようなことで理解をしていい

かということなのですが、いいですか。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 市長の答弁のとおり、そういうことでございます。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） 年金相談の関係でありますけれども、これはあくまでも相手のある話ですから、社会保険事務所の方で人員増という問題がないとなかなか難しいんだというような回答であったということで、これは引き続き市としても働きかけていきたいということでありますから、ぜひそういうことで働きかけをしていきたい。現状についての認識も率直に言って大変多いです。朝順番とるので——非常に大変な事態でのんびり来るといつになるかわからないようなことで、現況の認識という点から見れば大変なことだと思いますので、ぜひそういうことで働きかけをしていていただきたいと思うんでありますが、同時に今のお話の中でもありましたとおり、実際の年金相談という中では、裁定の請求——その申請、そのケースがほとんどだということで、自分の年金がどういうふうになれば幾らもらえるだろうかとかというような相談というようなケースは、実際には余りないというようなことでありますから、それだけにこの年金の受給の問題で申請する前にきちんと整理をしておく問題、これは市としても働きかけをして年金の受給者、申請者には年金の請求漏れがないようにというような趣旨のお知らせが必要なんじゃないかな。もっと積極的に年金のことを知らせていくことが求められるんじゃないかな。いろんな本を読みましても、大体10人に1人ぐらいの割合でいるというんです。特に、今の年金の請求する世代というのがちょうど戦時中から戦後の混乱期にありますから、自分が働いていたところは爆撃でもう何もなくなっちゃったから、まさか年金もらえるとは思わなかったとか、あるいは一時金をもらったと思ってたから年金の資格がないと思ってたとか、結構そういうケースで請求をしていないというのが非常に多いんです。

先ほど御紹介したとおり、100万円もの年金が未請求であったというケー

スの方もおられるわけです。こういうケース、私もいろんなところで年金の問題で住民の方と話をするときに、結構こういうケースあるんです。ですから、今年金の現況証明に来られる方とか、あるいは年金の相談に来られる方とか、そういう方にはいま一度自分の年金の請求漏れがないのかどうか、そうしたようなことで知らせていく——市としてもそういう働きかけが大事なんじゃないか、それが直接市民の年金もらう方にとっては実際に収入がふえることですから、その辺での市の工夫があっていいんじゃないかと思うんですが、いかがですか。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） いわゆる未請求の問題でございますけれども、そういう実例があるというようなことでございますんで、担当の方ともよく協議してよりそういう未請求がないような形でそういう措置をとっていきたいというふうに考えています。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） じゃそういうことで、ひとつ年金受給者の方への現況証明という形で年に1回は必ず来ますから、そういうようなときにはそういう点でのパンフレットなり、簡単なチラシなりとかを準備してあげれば非常に効果的なんじゃないかなと思いますので、ぜひ御検討いただきたいと思います。

それから、古紙価格の下落の問題で、古紙価格の動向を得て今後対処していきたいということでもありますけれども、動向を見てというんですけれども、現況の認識はどうなんでしょうかね。現況は、かなりこれは問題のある価格水準が続いていると私は認識を持っているんですけれども、いかがですか。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 確かに古紙の下落、これは全国的な問題であるわけでございますけれども、館山市にもそういう波が押し寄せてきております。最近になりまして、かなり新聞と雑誌につきましても下落をしておるわけでございます。そういうような状況認識はいたしておりますが、これに対応すべく今後検討してまいりたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） ジャ鋸南道路の問題でありますけれども、部分供用についても働きかけていきたいというようなことで、実際には鋸南道路部分が一番早く先行しているという進捗状況かと思いますので、これについてはいつの時期に大体考えられておるのか。当初平成4年とか5年とかという話がありましたけれども、現在その辺はどういうふうに把握をされておるのか、お聞かせをいただきたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 建設部長。

◎建設部長（伊東 衛君） 建設省に問い合わせた結果、これについては、時期については明言しておりません。ということは、非常に地権者の問題がございまして、今こうだということは言えないそうでございます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） こういう場所ではなかなか言えないということなんでしょうけれども、いろいろ感触はあるんでしょうから、また違う場所じゃお聞かせをいただきたいなと思えますけれども、かなりトンネルも抜けましたしね、非常に工事が進んでいるように理解しておりますので。

次に移りますが、那古の下水路の問題でありますけれども、一応検討中だと言っているのは、現在の那古の下水路の排水浄化施設をつくるということで検討をそれぞれしているのか、それとも3排水路を同時処理ということで現在検討を進めているのか、そこら辺が先ほどの答弁でははっきりしなかったんですけれども、一応どちらなんですか。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 市長の答弁も、現在対象排水路、施設規模、工事費、建設用地等について検討しているということでございますので、御了解いただきたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） それが御了解できないから聞いたんですけれども、どっちなんですかということで、あるいは両方含めて検討しているというこ

となんでしょうかね。どちらなのか両方なのかいずれですか。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） すべて含めまして検討しているということでございます。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） この下水路を1本、1本つくる——排水施設をつくるということと3本を一遍にやる、3本を一遍にやればそれだけお金たくさんかかるんです。しかし、個々に1本、1本つくる総計から比べれば、非常に経済的には合理的なことで、お金の使い方としては非常に合理的な方法だろう。ですから、今までの施設もそういう形で進められてきているわけで、那古についてもそういうことで御検討すべきだと思うんですが、時間ですの、そういうことで御検討いただきたいと思います。

以上で終わります。

◎議長（福原 勤君） 以上で21番議員神田守隆君の質問を終わります。

次、14番議員小宮利夫君。御登壇願います。

（14番議員小宮利夫君登壇）

◎14番（小宮利夫君） さきに通告しました8点について質問いたします。

まず第1点は、館山駅橋上駅舎の建設であります。橋上駅舎の建設は、市民の長年の懸案で、利用者の待望すること久しい。去る6月の議会で請願が採択されております。駅西口区画整理事業も着実に進展し、完成年度も早まるのではないかと考えております。これと軌を一にして橋上駅が完成したならば、市の活性化は火を見るよりも明らかであり、この波及効果による東口開発の端緒がつかめるかと思ひます。事業は人がやる仕事であります。やる意欲さえあれば必ずできると思ひます。ナポレオンの辞書を引用するまでもないと存じます。現に四国丸亀市は、館山市のように鉄道路線が市の中央を走って北と南に分断されていたが、香川県が中心となって県単事業としてかつての国鉄と事業協定をして高架路線としましたために、南北の交通が自由となり、急速な発展を遂げたこと市の職員は誇らしげに説明しました。この波及効果は、予測を超え意外性の連続だったそうです。蔑視するわけではあり

ませんが、小さな香川県でさえこの大事業と取り組んでおります。人口がもう少しで全国第6位になろうとする千葉県で、やれないことはないと思います。県政の北高南低型の政策を変えていただくよう御努力をお願いします。館山市も県に働きかけて八幡地先から新宿地先まで高架鉄道にするような雄大な計画を望むものであります。橋上駅舎の取り組み方についてお伺いします。

第2点目は、リゾート法による太陽海岸平砂浦計画で示されてから久しい熊谷組が計画中のゴルフ場は、6月10日までの期限で駆け込み申請で許可となったと思います。平砂浦計画は、ゴルフ場とヨットハーバーのペアで認可と聞いております。ヨットハーバーは、平砂浦の中ほどに島を造成して約1,000隻収容のハーバーの予想図が描かれて、地域の利用者や住民に提示されました。漁民や住民の中には多少の反対者はあったものの、地域発展のため理解を示しました。この理解の要因は、農薬や薬剤散布等で小魚の——いわゆるこませが死滅してしまったことです。このこませを求めて来る小魚、これを追って大小さまざまな魚が来て、平砂浦は魚の宝庫でありました。この魚を取る大地引網が生活の大半を支えておりました。

かつて平砂浦は、膨大な砂丘で日本三大砂丘と言われて大地引網を引く絶好の場でありました。平砂浦の生態系が破壊され、漁業の将来は絶望に近いときヨットハーバー計画が持ち上がり、地区民にバラ色の未来を想定させました。国や県の方針と申しますか、さきにハーバー計画を認めた予想計画図を示し、後から環境の破壊だといいます。行政機関が実施主体ならばと注釈がつきました。そうであるならば、県が実施主体となって造成すべきだと思います。朝令暮改のあり方に疑念を抱くものであります。また、もう一遍アプローチできないものか、またほかのリゾート計画の進捗状況をお伺いいたします。

第3点目は、機構改革についてであります。全国の市町村のどこでもまちづくり村興しに奔走し、行政の主体としております。この中核は、企画部か企画課であります。企画と広聴広報が一体となって市民のニーズを吸い上げ、市政に反映させ広報する。整然と統一された行政——これが行政の美学であ

ります。行政哲学が指導理念の脆弱なことでは発展性が薄い。市民は、指導理念や行政哲学の示唆によって市の行く末を考え、未来へも進むのだと思います。かつての役場的発想や有職故実を踏襲した時代は、それなりによかったが、変容の激しい現今ではその対応は難しいと思います。前には企画課がありましたが、今は企画担当であります。企画というシンクタンクが市長を補佐しなければ、活性化は望み薄いかと思います。企画部の創設をお願いしたいと思いますが、お考えをお伺いします。

第4点目は、館山市史の資料編の編さんについてであります。かつて通告質問したことがあります、編さんの機運がなかなか出てこないようです。館山市史を編さんしたときに、市内の古文書を広く調査して写本し、博物館に保管されたと思います。当時の市長は、通史を急ぎ資料編を後回しにしようとするお考えだったと思いますが、市史が上梓されてから21年経過しております。貴重な古文書を死蔵させてはならない。館山市の歴史の資料を広く公開させたい。幸い博物館も建設され、学芸の専門職もいることだし、編集する好機会かと思いますが、いかがなものでしょうか。

第5点目は、結婚相談員の活動状況であります。第1次産業と商業の嫁不足は深刻で全国的な問題となっております。若者は独身貴族の風潮があり、OLはサラリーマン指向型で、結婚相談員は業務に大変御苦労されると思います。農漁村地域のサラリーマンの嫁も、農漁業があるからと敬遠され、私の周辺でも30代後半から40過ぎた青年が大変見受けられます。現実の問題として、農漁村の婚期の娘がサラリーマンと別世帯を望んでいる現況であります。他の地方のある農家では、外国からお嫁さんが来たが、言葉の障害と風俗習慣の相違がネックとなって離婚数も多いと聞いております。結婚相談員制度が始まって以来どのくらいのカップルが誕生したか。また、カップル育成のための年中行事をお聞かせください。

第6点目は、戦争記念碑、その他の碑の管理はどうなっておりますか。町村合併前の町村単位で日露戦争の戦勝記念碑があると思います。この碑の建立年は明治39年とあり、86年の歳月を経ております。中には周りの記念樹が大木となり、碑を圧迫して危険な状態のところもあります。この碑を安全に

修復するため、地元の有志、特に郷友会の方々が中心になって30万円の浄財を募り修復したところもあります。このまま放置しておくとな人命の損傷にもかかることになりますので、管理や修復についてどのような御意見をお持ちか明確にしてください。

第7点目は、ごみとなって焼却される衣料品を再生して、低開発地域や難民に送って救済の温かい手を差し伸べたらと思います。ごみ集積所には、まだ十分に使用に耐える衣類が多く見受けられます。若い世代は流行が廃ると惜しげもなく捨てます。お年寄りはおもたないといふたんすの肥やしにしております。以前、広報で不用品の交換記事がありましたが、このごろは見受けられないようであります。消費は美德の時代は過ぎました。物の価値を再評価して難民救済に当たることを進言いたします。

第8点目は、館山駅便所の改善は急務であります。JR自動車営業所は、以前のバス発着所を改良して乗降客の便宜を図り、きれいな売店等は好評のようであります。駅のトイレの臭気が甚しく、男子の便器はあかが付着し、白い部分が見えない状態で、中には詰まった便器もあります。女子のトイレは、ドアが壊れ、便器の汚れも甚しい。これが観光地の便所かと旅行者のひんしゅくを買っております。本年の旅客ダウンには便所との因果関係があるのではないのでしょうか。駅と御相談されて早急な改善をお願いいたします。

以上、御答弁によりまして再質問をさせていただきます。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの小宮議員の御質問に対してお答えいたします。

大きな第1、館山駅を橋上駅にするのかどうかとの御質問でございますが、御案内のようにさきの6月館山市議会におきまして、館山駅西口地区まちづくり協議会から、「単なる自由通路の建設では不便である。」等の理由から、新しく提出されました「館山駅橋上駅舎建設に関する請願」が審議、採択されております。また、橋上駅舎建設陳情のため署名運動が行われているやに伺っております。今後は、これらの状況を十分に踏まえながら、リゾートタ

ウン館山の表玄関として東西両地区の一体性を確保するための施設として、どのような施設が最もふさわしいのか十分に調査、検討してまいりたいと考えております。

次に、大きな第2、リゾート計画の進捗状況についての御質問でございます。南館山マリンパーク計画、太陽海岸平砂浦計画とも、去る6月10日に森林法に基づく林地開発許可申請が千葉県に受理され、現在両計画とも事業者において、都市計画法に基づく開発許可申請の手続準備が進められているところでございます。

太陽海岸平砂浦計画の海浜部の計画につきましては、御指摘のとおり県の埋め立て方針の関係で計画変更を余儀なくされております。館山市といたしましても、県と協議を重ねてまいりましたが、現在のところ埋め立て方針を変更するつもりはないと県からの回答でございます。御了解をいただきたいと思います。

次に、大きな第3、機構改革についての御質問でございますが、平成3年の4月、館山市役所の建設部の新設等、行政需要に対応した組織の見直しを進めました。現在、1室4部制といたしました。

御質問の企画部門の重要性につきましては、十分に認識しているところでございます。今後とも貴重な御意見を参考といたしまして、これからの時代に即応しました組織のあり方を検討してまいりたいと考えております。

大きな第4、館山市史資料編の編さんにつきましては、教育長から答弁申し上げます。

大きな第5、結婚相談員制度が始まって以来、どのくらいのカップルを成立させてきたかとの御質問でございますが、昭和51年度から館山市社会福祉協議会で結婚相談業務を開始しておりまして、成立件数は平成3年度までの16年間で66件と聞いております。また、カップル育成のための年中行事につきましては、「若人のつどい」あるいは「出会いの広場」と題しました行事が行われております。

大きな第6、日露戦争の戦勝記念碑の管理についての御質問でございますが、当時記念碑がどのような経過で建てられ、またどなたが管理されてこら

れたのかわかりませんので、現時点で管理責任について明確なことは申し上げられませんが、一般的に申し上げれば、建設した当事者が管理すべきものと考えております。

次に、大きな第7、衣類の再利用についての御質問でございますが、館山市におきましては、広報で衣類を含め一般家庭用品について不用品交換の情報を提供し、資源の節約と消費者意識の向上を図っております。

なお、これらの不用品を難民や低開発地域に役立てることにつきましては、日本ユニセフ協会や日本赤十字社などでは、現地での受け入れ態勢がない等の理由から、現段階では援助物資は受け付けていないのが実情でございます。例えば日本赤十字社の「ニカラグア地震・津波救援金」につきましても、物資の受け付けはいたしておりません。

次に、大きな第8、館山駅前便所の改良についての御質問でございますが、J R 館山駅が所有しております駅前便所につきましては、昭和58年3月国鉄時代に改築したものでございます。

したがいまして、清掃管理等につきましても、J R 館山駅が利用者に対して清潔で快適に利用していただけるよう努力していると伺っております。市といたしましては、今後も機会をとらえ、より一層の清掃管理等についてお願いしてまいりたいと考えております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 福原教育長。

（教育長福原 修君登壇）

◎教育長（福原 修君） お答えをいたします。

大きな第4、館山市史資料編の編さんについての御質問でございますが、市史の編さんの方法はいろいろあろうかと存じますが、一般的には資料集を作成し、その後、通史を刊行するところが多いようでございます。したがいまして、資料編の必要性は痛感しておりますが、市史編さん委員会が解散し、21年が経過しておりますので、資料編の編さんに取り組むためには新たに市史編さん委員会を設置しなければならないと考えております。

なお、博物館としましては、種々調査を実施し、報告書または展覧会図録

等を刊行してまいりましたが、開館10周年記念事業として里見氏の資料集を検討したいと考えております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 小宮利夫君。

◎14番（小宮利夫君） ただいまの市長の御答弁でほぼ了解いたしました。二、三質問をさせていただきます。

先ほどもお答えの中にございましたように、私の質問はちょっと抽象的であるかもしれませんが、橋上駅をさらに前進させるため、署名運動が進められております。私のところにも来ております。組織を利用した署名は、強力なものだと思っております。この大勢の思いの具現化を急がないと、橋上駅舎建設をスローガンとする有力な候補があらわれた場合、大変な危惧を感じる一人であります。作文で伺いましたけれども、もう一度市長の口から、かたい御決意をお聞かせいただきたいと、このように考えております。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

◎市長（庄司 厚君） 新しい都市計画のこれからの県南の中核都市館山の表玄関でございます駅舎はどうあるべきかということにつきまして、積極的な極めて将来を見通しました意欲的な御意見をちょうだいしたことを、うれしく思います。個人的には、小宮議員と同じく館山市内におきましては、JRは立体交差であるべきだと、考え方を持つのでございますが、それは相当な年限がかかるのでございましょうし、次善の策として御意見のように10年前の東西歩道橋というのかえて、これからの時代は橋上駅舎だという6月の議会でも請願が採択されましたけど、これからの館山駅のあり方はその方向で早急に検討を開始すべき段階に来ていることを強く感じております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 小宮利夫君。

◎14番（小宮利夫君） 大変かたい御決意ありがとうございました。私は、故半澤市長の悲願、半澤哲学が市民パワーとなって文化ホール建設が決定したと思っております。半澤市長は亡くなったが、半澤哲学が脈々と生きて、その魂魄が生ける県政を動かしたものと、このように信じております。市長

も館山百年の計、21世紀を展望した高架鉄道まではいかなくても次善策でおっしゃいますけれども、せめてそのような悲願を持って庄司哲学を昇華していただきたい、このように考えてこの問題を終わります。

次は、第2点目でございますが、国は羽田空港が手狭になったとそのわきを埋め立てて拡張工事をしています。県は3番瀬を埋め立てようとしております。国家プロジェクトだから、県のプロジェクトだからと許されていいもののでしょうか。これが環境破壊でなくて何でありましょうか。東京湾の濁流は、次第に魚を寄せつけず、平砂浦にバカガイの異常な発生を見たことは、清らかな海底が泥土と化している証拠であります。富崎周辺の生きる道は漁業ではなく、雇用の場を——海を利用して造成することにあります。ヨットハーバーができれば、そこは一大魚礁となり、伊勢エビや根付け魚の宝庫となり、さらに自然景観のアクセサリーとなって一幅の絵となります。この一石二鳥の効果を、国や県が決める筋合いはない。最も依存度の高い住民に決定権があると思います。このような国や県の御都合主義やエゴイズムに憤りを感じておりますが、この私の考え方が間違っていたら教えていただきたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（小沼 晃君） お答えをいたします。

公有水面の埋め立てに関しましての御質問でございますが、公有水面の埋め立ては、公有水面埋立法によりまして、知事及び港湾管理者の長の権限となっております。そういうことで、御理解をいただきたいと存じます。

ただ、県といたしましても、埋め立て方針の中で、リゾート事業のプロジェクトの実現方策を市とも協議していく予定と、こういうことになっておりますので、今後とも地元及び企業を含めて対応してまいりたい、このように考えております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 小宮利夫君。

◎14番（小宮利夫君） ひとつぜひそのようにして前進させていただきま
す。

次に、平砂浦の後背地は、美しい松林で守られ、フラワーラインが建設された。しかも、道路百選に選ばれ、海岸は白砂青松百選に選ばれた。この美林を守るため、美しい海岸線をコンクリートで固めた防潮堤を築き、これが埋まるとさらにテトラポットを波打ち際に先へと積み、満潮時には海岸を散歩することができない。これを環境破壊と言わない県政のエゴイズムが、私はテトラポットを撤去してもらいたい。このことをどう御理解しておりますか。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（小沼 晃君） テトラポットの撤去についての御質問でございますが、これは既設の防潮堤が昭和56年の台風により決壊をいたしました。そのため、後背地の保安林の浸食を未然に防止することから、県が相浜漁協の同意を得て56年度から59年度にかけテトラポットの設置をいたしたものでございます。撤去できないというふうに伺っておりますので、御理解をいただきたいと思います。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 小宮利夫君。

◎14番（小宮利夫君） 撤去できないとおっしゃいますが、あのテトラポットでどれだけの効果が上げているかということを私は非常に疑念に思っているわけでございます。あの防潮堤が壊れたというけれども、あの防潮堤だけで十分です。それにもかかわらず、しかもまた恐らく県としてもあのテトラポットの先にまたテトラポットを持っていくんじゃないかと、このような林を守るためのエゴイズムだと私は考えます。海のこと一つも考えていない。漁業協同組合が許可したからやったんだと。この漁業組合もどんな考え方で許可したか知らないけれども、本当に自然の景観は破れて海岸を散歩することもできない。このような状況で、私は何とか撤去してほしいと、このようにもう一回お願いします。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（小沼 晃君） 確かに御指摘のように、自然景観上と申しますか、そういう面からいきますと、余り好ましいものではないというふうに私

も考えるわけでございますが、ただ平砂浦の砂防の入り口をいろいろ振り返ってみますと——これは昭和24年度から昭和32年度まで250ヘクタールに及ぶ砂防林が建設されておるわけでございます。砂防は、あの時期では元禄時代からの非常に懸案の事業であったというふうに伺っておるわけでございます。この防潮堤——テトラポットも含めてでございますが、浸食を防止しなければ、この砂防林がなくなってしまうというようなこともございますので、私どもといたしましては必要なものと。ただ、今後もテトラポットを設置するかどうかということについては、まだ私ども伺っておりません。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 小宮利夫君。

◎14番（小宮利夫君） 私のこれ考えでございますけれども、あのテトラ、防潮堤がなくてもあの美林は守れますよ。あの防潮堤がどれだけの役目をしているかというのと、大した役目していません。それで——これはこの先の問題にしますけれども、私はテトラポットは大して影響していませんと、このように考えております。

次、湘南海岸を私1回通ったことがある——2～3回ですが、通ったことがございますが、湘南海岸はそれこそ見事な防風林です。むしろ向こうの方が年輪が深いのではなかろうかと思っておりますが、そこに海岸に通じる道路が整然と施されております。さきに神田議員が御質問されたと思いますが、再度質問しますが、海岸に通ずる歩道はできないものかどうか。白砂青松百選を広く全国に開放する気はないものかどうか。平砂浦海岸こそ市に残された唯一の海水浴場であり、処女地であります。この御認識はどのようにしておりますか、お伺いします。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（小沼 晃君） 歩道等の整備につきましては、去る6月議会でお答えいたしましたように、平砂浦の全体の整備を考える中で検討をしてみたい、このように考えております。

それから、平砂浦海岸の海水浴場化の御質問でございますが、私どもといたしましては、今後検討すべき課題である、このように認識をいたしており

ます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 小宮利夫君。

◎14番（小宮利夫君） 了解しました。

これは、地域の問題でございますけれども、松林と砂防堤のために、動いている砂が逆流して既存のいそ根を埋めております。さらに、遠い布良の瀬という魚の宝庫までいそ根が埋まっているそうでございます。完全な生態系の破壊であると私は考えております。これは元禄時代からおっしゃいますけれども、当時やっていけばいそ根の形態もやや定着するんじゃないかならうかと思いますが、ここ20年そこそこのああいのような状況になると、いそ根の状況というのは本当に変化するわけです。ですから、そこで生活をしている海女さんたち、漁業者、これは本当に悲鳴を上げているわけでございます。埋まっているわけでございます。このことに関して、どのようなお考えを持っていますか。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（小沼 晃君） 御質問の内容の因果関係につきましては、これは立証ということは大変困難ではないか、このように考えております。しかしながら、確かに漂砂が堆積しているということも、これまた事実であるわけでございます。現在、西岬漁協、相浜漁協、布良漁協の3漁協で県に対しまして新たな漁場の造成をお願いしているということを伺っておるところでございます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 小宮利夫君。

◎14番（小宮利夫君） ただいま、因果関係はちょっと難しきろうとおっしゃいましたけれども、私は昔からそこへ住んでおりますから、あれがなければあそこの——平砂浦のいそ根はあったわけです。現在は埋まっちゃったんです。ですから、あれができたために埋まったというふうな僕は因果関係を考えているわけですが、その点の因果関係についてはないとおっしゃるんですか。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（小沼 晃君） お答えいたします。

漂砂という — いわゆる海の中の砂の動きというものは、なかなか科学的に解明するのは難しいというふうに私ども伺っておるわけでございます。結果的に小宮議員さんのおっしゃるとおり、砂が堆積しているということは事実であるわけでございますけれども、これを科学的に証明していくのは大変困難ではないか、そういうようなことも私どもは聞いておるわけでございます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 小宮利夫君。

◎14番（小宮利夫君） 了解しました。

私は、幾つかの矛盾した点を挙げましたが、鴨川市は新しいリゾート像として第2次観光マスタープランをまとめて発表しております。これは第3点目の企画の独立性と関連がありますが、鴨川市は新しいリゾート像をつくった。ちょっと読み上げてみますが、「鴨川市は、21世紀の鴨川を展望した第2次観光マスタープランをまとめ、さきごろ発表した。その将来像を潤いと触れ合いのある国際コンベンションリゾート都市と描いている。これを基本に本年度中に実施計画を作成、来年度からその実現へ向けて本格的に取り組む段取りである。同マスタープランの計画達成年次は、平成13年度年間入り込み客数を約600万とし、現在実績の2倍を目標としている。宿泊率も現在の約2倍にまで持っていくというのが、そのフレームワークだ。この実現のために、計画は通年滞在型の強化、国際コンベンション都市化、地元産業の活性化、美しいアメニティー空間づくり、周辺地域との提供を挙げている。そして、これらの柱を軸に、全市を鴨川中央区、南鴨川地区、金山保台地区、長狭平野地区、嶺岡高原地区の5つのゾーンに分け、地域の特性を生かす整備計画を具体的に打ち出している。例えば南鴨川地区を見ると、フィッシングボートの建設、いそ釣り公園の造成などを提言、さらにお花畑の観光的強化、民宿の近代化、JR太海、江見両駅付近の修景保存などの必要を指摘している。また、他の地区には、フィッシングポート、オートキャンプ場、アトリエ村、観光物産センターの建設、市立美術館の設置などを提案されてい

る。提案は、このように多岐にわたっているが、施設づくりだけでは魅力あるリゾートは不可能として、マスタープランは個性的なイベントの創出の必要性も協調している。今後国民のライフスタイルは大きく変わっていく。労働時間の短縮、学校5日制の導入、退職後の長い老齢期、以前に比べ自由に使える時間は確実にふえている。余暇は休息の時間でなく、自己実現の場になろう。これに加えて、本県の場合かずさアカデミアパーク、東京湾横断道路の建設というビックプロジェクトが進行中だ。横断道路の完成は、平成7年度開通すれば、川崎市と木更津が15分で結ばれる。また、かずさアカデミアパークには、研究者などが世界から集まる。このような同市の観光リゾート化をめぐる状況は、極めてよい。しかしこうしたリゾート化は、南房の各市町村でも取り組んでいる。成功の成否は、計画の骨格であるマスタープランにいかに個性的な肉づけができるかにかかっている。古くからの観光地として蓄積されたノーハウを存分に生かし、バブル経済崩壊後のリゾートの新しいイメージを大胆に打ち出してほしい」、このような社説が載っておりますが、このようなプランは企画の存在があってできることであって、市職員のシンクタンクと実施産業に依存をして一日も早く機構改革を望むものであります。

きょうの新聞にもありましたんですが、法務省は刑事局の機構再編に取りかかり、刑事法制課を新設とありました。これは、激変する情勢に対応するためであり、市も対応におくれないようにしていただきたいと思います。ぜひとも、企画の存在を明確にして今後の市政に寄与していただきたい、このように考えております。

終わります。

次は、資料編でございますけれども、ただいまの教育長の御答弁は、ちょっとそのようなこと今の段階ではできないようなことをおっしゃいましたが、私は館山市は文化都市を標榜しております。文化都市とは何だかということになりますと大変難しい問題でしょうけども、先人が残した古文書は、これは本当に貴重な現在の館山を支えた過去のものだと思うんです。これを知ることとは、大変大事なことじゃなからうか。また、これを公開するとい

うことも大事じゃなかろうかと思っております。どうか編さん室なり、編さん委員会をつくって——大変事業も多いと思いますが、これを上梓することを強く要望します。

第5点目の農漁村や商家の独身者の地域別の調査があるようでございますから、お伺いします。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 結婚相談員の関連で農漁村の独身者の地域別の調査があるかということでございますけれども、現在のところ独身者というジャンルのデータはないというふうに聞いております。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 小宮利夫君。

◎14番（小宮利夫君） 先ほども通告の朗読で申し上げましたけれども、本当に私の近辺でも相当数お嫁さんのない人がいるわけで、これはまたサラリーマンでございます。でも漁家ということで敬遠されがちになるようでございますけれども、この結婚相談員に対して市の福祉協議会がやっておりますので、市の助成金と相談員はどのような報酬を得て活動しているかどうか。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 結婚相談員の業務委託の関係でございますけれども、活動費といたしまして、主任には年間2万1,000円、副主任には1万8,000円、それから一般の相談員については1万6,000円という平成4年度、現年度の相談活動費でございます。

◎議長（福原 勤君） 小宮利夫君。

◎14番（小宮利夫君） この福祉協議会でやっていることも大切でございましょうけれども、現に自然増をこれからしなければならぬ館山だと思うんです。その自然増をあたたら青年をそのままにしておくということは、本当に私たちも将来を考えているわけでありますから、この相談員制度を市が直接やって強力に進めるということはできないのでしょうか。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） この結婚相談員制度を市が直営でやったらいか

がかという御質問でございます。社会福祉協議会で実際にやっているわけ
でございますけれども、市の窓口でございます福祉事務所、そういうところと
密接な連携を持って実施しているわけでございます。そういうことで、一応
お願いをし、委託をして市からそういう委託料を払っているわけございま
すので、組織を館山市で直やるということも1つの方法かと思えますけれ
ども、ただ御承知のとおり、この福祉関係の仕事というのは——いわゆる民間
活力の増大を図るという大きな国の流れでございますので、そういう面もあ
わせて考えていきたいというふうに考えています。

◎議長（福原 勤君） 小宮利夫君。

◎14番（小宮利夫君） わかりました。それでは、私お願いでございます
けれども、現行制度をそのまま認めるとして、これからそういうふうな状況
がだんだんにふえてきますので、13名の相談員ではちょっとこの広い館山で
は目が細かく届かない、このように考えております。さらに、もう少し市と
しても力を入れて、補助金、助成金制度とか、相談員手当とか、そういうよ
うなものをやっぱり上げてさらに、さらに前進するようにお願いを申し上げ
まして、私の質問終わります。

◎議長（福原 勤君） 以上で14番議員小宮利夫君の質問を終わります。

次、26番議員辻田 実君。御登壇願います。

（26番議員辻田 実君登壇）

◎26番（辻田 実君） 通告を申し上げました3項目について御質問を申
し上げたいと思います。

第1項目は、平成5年度予算編成の時期にあります。政府は、バブル経済
がはじけ景気浮揚対策を目指し、10兆円を超える史上最高の補正予算を決定
しております。館山市も過疎から生まれた長期的不況を克服するため、次年
度の予算は積極的な大型なものへ職員の英知を結集して編成されることを切
望いたします。そこで、市民の要望が非常に多い5点について御質問を申し
上げたいと思います。

1つ、道路並びに側溝の整備についてお尋ねをいたします。館山市の道路
は、国道、県道は100%舗装をされ、整備もよく行き届いておるものと思わ

れます。しかし、市道の舗装率は92%です。288キロメートルの市道の中で、未舗装が24.7キロあると言われております。そして、市道の舗装改良とさらには側溝の整備を求める市民の要望が非常に多く出されております。地元から要望が出されても対応ができない状況にあるわけございまして、現在市に提出されておりますところの要望と、市として改良、補修を必要としておる道路、側溝については、どのぐらいの量になるのか。そして、どのぐらいの予算がかかるのか教えていただきたいと存じます。

また、これらの問題については、2～3年で抜本的に改修、整備する御意思があるのかないのか、この点について市長の所信をお伺いいたす次第でございます。

2つ、福祉会館の建設について再度質問を申し上げます。この問題については、昨年6月の議会で各種団体の拠点として市民センターを活用しながら、整備、充実をしていきたいとの答弁がなされました。この1年余り、どんな整備をなされてきたのかお伺いをいたします。また、県、国の強力な施策として市町村に福祉センターを建設するという方針が打ち出されております。この方針に基づいて県下の市町村では、非常に進んできております。今や国、県の福祉政策の推進に福祉会館は不可欠なものと思われれます。次年度の予算において対処できないものか、この点についてお尋ねをいたす次第でございます。

3、ゆとり宣言都市事業についてお伺いをいたします。昨年9月議会で請願書を採決したゆとり宣言に関する決議に基づき、労働省の委託によりゆとり創造宣言都市奨励事業の指定を受けることになりました。これは、高く評価するものでございます。この指定は21市であり、関東では川崎、前橋、所沢、今市、府中の5市と館山市を合わせた6市だけのものでございます。また、この事業は平成2年度から始まり、今回で55の都市が指定になっているそうでございますけれども、こうした名誉ある指定を受けたわけでございますので、立派な成果を上げなくてはならないと思います。

そこで、この事業の推進に当たり、市の対応と次年度への予算はどのように考えておるのかお尋ねいたします。さらに、リゾート地として余暇利用と

労働時間の短縮は不可欠なものだと思われます。この点についても市長の考えを聞かせていただきたいと思います。

4、若潮剣道大会の助成についてお尋ねいたします。本年若潮剣道大会は、10周年を記念して全国から参加チームを集め、非常に盛会に実施されました。その参加者も、多くの旅館、民宿を利用いたしまして、本当に関係者が喜ばれておるということを伺っております。その宿泊人数等について把握されておられるのでしょうか、お伺いをいたします。そして、今回の成果に立ちまして、来年度も継続するために補助金を含め、市として対応していくつもりなののでしょうか、この点についてお伺いいたします。

また、私は常にスポーツの振興と市政の振興を結びつけております。そこで現在、全国でも最も盛んなスポーツであるサッカー、野球でも、剣道同様に全国大会として開催することを考えるお気持ちはないのでしょうか、この点について所信をお伺いいたしたいと思ひます。

5番目に、薪能の継続についてお伺いをいたします。7回開催いたしましたが、昨年は切符が売れないということを含めて中止されました。しかし、ことは復活されたわけございまして、天気にも恵まれ盛会であったと思ひます。私は、この継続を歓迎するものでございします。

そこで、御質問をいたします。薪能を定着させていくためには、市民に理解をされなくてはなりません。そして、能を理解するためには謡と仕舞という難しい課題を勉強をしなくてはならないのでございします。謡と仕舞を社会教育において実施いたしていく気はないのでしょうか。講座、教室、サークルの育成等とあわせてお考えいただきたいと思うわけございしますけれども、この点についてどのようにお考えになっているのか、お尋ねをする次第でございします。

大きな項目の2つ目は、総合病院の建設についてお尋ねをいたします。総合病院を建設することは、館山市にとって緊急な問題であり、実現をさせなくてはならないと思っております。昨年の9月議会でこの問題について質問をいたしました。答弁は、館山市によって総合病院を建設するかのような質問でございしますが、そういう館山市の案というものは今までどこにもないは

ずでございまして、要するに医師会病院をどのように充実していくかという線です。歩いておられます、というものでございました。私は、意外な答弁で時間の関係もあり、十分な質疑ができませんでしたので、改めて再度御質問を申し上げる次第でございます。

1つ、市民の要望についてどのように受けとめられておるのかお伺いをしたいと思います。1、市の広報、ルック3号——これ8月発行のものでございますけれども、その中に私の住む町、私の一言の中で、館山市に欲しいものは何かという項目がございました。この圧倒的な数が総合病院の建設にありましたことは、御案内のとおりでございます。2つ、館山市の基本計画を作成するために実施した市民意識調査の中でも、日常生活の満足度の中で医療施設に満足しているという人は5.7%のわずかでございました。これに對しまして、不満が30.2%あったわけでございます。その上、やや不満が28.9%あったわけでございますから、合計59.1%の市民が不満をもっていたわけでございます。この割合は、道路、下水、河川、海に対する不満とともに、最高のものであったわけでございます。この点をどのように受けとめられておられるでしょうか。3番目には、さきの市長選挙の争点の第1が総合病院の建設にあったことは御承知のとおりでございます。3人の候補の中で、最も積極的な意見を述べられたのは庄司市長だったと思います。

この3つの事例から、総合病院に対する市民の要望が非常に強いものがあると思いますけれども、これをどのように受けとめられておるのでしょうか、お尋ねをいたす次第でございます。

第2は、総合病院の建設の見通しについて質問をいたします。昨年4月に改定された千葉県医療計画と、この7月に公示された地域医療計画によりましますと、館山市は高度な医療に対応する体制がないことが指摘されております。また、この9月4日に開かれた安房保健医療協議会において、市長さんは副会長に選任されたと伺っております。この会議の席上、館山保健所管内には、総合病院の要素を持つ医療施設を整備しなくてはならないので、ワーキンググループを設置して検討するということが決定されたそうでございます。前にも述べましたように、昨年9月議会で総合病院を建設するという案

はどこにもなかったはずでございますという答弁には、今でも市長は変わりはないのでしょうか。そして、どんな方法であっても総合病院を市内に建てる御決意を持たれないのでしょうか。この点についてお伺いをする次第でございます。

3つ目の質問でございますけども、医師会病院の改築の状況についてお尋ねをいたします。1つ、昨年9月議会に戻りますが、そのときの答弁で市長は、医師会病院の改築の最大の問題は用地の確保にあり、おおむね目途がついたので、これから具体的な段階に進んでいくものと考えておりますとのことでした。そこで、この1年間の状況、さらには土地取得の見通しがどのようになっておるのかお尋ねをする次第でございます。2つ、今回の医療保健協議会の答申により、医師会病院の改築は変わるものと思われます。この点をどのように判断なされておられるのでしょうか、お尋ねをいたします。3、現時点で医師会病院の改築はできるものなのでしょうか、この点の見通しについてどのように判断なされようとおされておるのか、お尋ねをする次第でございます。

4番目に、救急病院の充実についてお尋ねをいたします。9月9日の朝日新聞の論壇に次のような文章が載っておりました。「救急の日ができて10年、9月9日は救急の日、各地で多彩な行事が繰り広げられる。だが、そこで表立って語れない現実がある。現場での手当てはよく、救急車も手際よく運んだのに、運んだ先の救急病院の質に問題があって、救えるはずの命が救えなかった。そんな例が少なくないということだ。」この文章を読んで、館山市の救急体制を指摘されているように思いましたけれども、この点についてどのようにお考えになっておるのかお尋ねをいたす次第でございます。

次に、救急医療の現状は非常におくれていると思いますけれども、この点をどのようにお考えになっておるのか、お尋ねをいたします。

次に、自衛隊のヘリコプターによる救急輸送は、昭和37年から始まっておりますけれども、当初は館山に収容されておりましたけれども、昭和60年ころより鴨川に移ってしまって館空の機能というものは——この面においては機能は十分果たされておらないようでございますけれども、この点をどの

ようにお考えになるでしょうか。

救急センターの充実は緊急な課題でございます。この点の充実についてどのようにお考えになっているのか、お尋ねをする次第でございます。

3番目に、文化ホールの建設についてお尋ねをいたす次第でございます。この問題については、ぜひとも実現をさせていかなければならない、このように考えておるわけでございます。こうした観点から御質問を申し上げます。

3月に鴨川と非常な競争を展開した上に、館山市に文化ホールが決定されたわけでございますが、それ以降、県との交渉、打ち合わせはどのようになっておるのか、まずお伺いをいたしたいと思います。

2番目に文化ホールの誘致に当たり、市はコミュニティ広場を提供するという事を申ししておりますけれども、このコミュニティ広場においては、その面積が少し小さいのではないかというふうに思うわけでございます。この点について、どのように考えるのか。それは、都市計画道路があの中中央に通るということ、さらにはあの用地は、当初市役所の建設用地として取得されたわけでございますけれども、あそこにコミュニティセンターができた場合、市役所用地をどうするかという点については、どのようにお考えになっておるのか、お尋ねをする次第でございます。

3番目に文化ホールの建設については、市民のいろいろな要望が出されております。私もいろいろ聞いております。こうした要望については、どのように集約されておるのか、お尋ねをいたしたいと思うわけでございます。私は、今からでも個々の要望でなく、市民全体の意見を聞くということでもって館山の文化ホールがどういうものが欲しいのか、こうした点についてアンケート等をとって、そして市民の要望とでき上がった文化ホールが本当に納得のできるものになっていただくようにしなければならないというように思うわけでございますけれども、こうしたことをいたすお考えはあるのかどうか、この点についてお伺いをいたしたいと思うのでございます。

以上、質問を終わります。答弁によりまして再質問をいたしたいと思いますので、よろしく願いを申し上げたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 午前の会議はこれにて休憩とし、午後1時再開とい

たします。

午前 11 時 56 分 休憩

午後 1 時 02 分 再開

◎議長（福原 勤君） 午後の出席議員数26名、休憩前に引き続き会議を開きます。

答弁を求めます。

庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） 先ほどの辻田議員の御質問にお答えいたします。

大きな第1の小さな第1点目、道路並びに側溝整備についての御質問でございますが、現在要望の出ております平成5年度以降の市道の舗装及び側溝整備に係る事業量と概算事業費は、舗装新設が約2キロメートルで5,000万円程度、側溝整備が約21キロメートル、11億円程度でございます。

市道の舗装及び側溝整備の予算につきましては、年々増額し、事業を実施しているところでございますが、平成5年度におきましても、要望の強い道路排水整備を重点的に推進してまいりたいと考えております。

次に、小さな第2点目、福祉会館建設についての御質問でございますが、総合的な保健福祉施策を推進していく上で、その拠点となる施設の建設は重要な課題と認識しております。市民の生活環境整備や都市基盤の整備、促進とあわせ、総合的に判断していかなければならないと考えております。当面、市民センター及び保健センターを有効的に活用しながら、整備、充実を図ってまいり所存でございます。

次に、小さな第3点目、ゆとり宣言都市事業についてでございますが、労働省は豊かでゆとりある勤労者生活の実現のため、労働時間の短縮を初め、国民1人1人が活力とゆとり、生きがいを実感できる都市づくりに取り組んでおります。これは、国民にとりましても希望することであり、館山市民にとってもまた同様でございます。これを円滑に推進するため、労働省が全国労働基準関係団体連合会に委託しまして、ゆとり創造宣言都市奨励事業として実施しているところでございます。

館山市は、この奨励事業の対象として労働省の推薦を受けたものでございます。今後当該連合会により、ゆとり創造プラン協議会が結成されまして、館山市に見合った事業を協議するものでございます。したがいまして、予算につきましても、協議内容により検討してまいりたいと考えております。

大きな第1の小さな第4点目、若潮剣道大会についての御質問でございますが、教育長より御答弁申し上げます。

小さな第5点目、薪能の問題につきましても、教育長より答弁いたします。

次に、大きな第2の御質問の小さな第1点目から第4点目について関連がございますので、一括してお答えいたします。

総合病院など、特に救急医療に対応できる医療体制の整備につきましては、市民の要望が強いことは十分認識しております。これらの問題に関しまして、千葉県により地域保健医療計画が策定されまして、本年の7月に公示されたところでございます。この計画によりますと、今後の安房地域に必要な施設といたしまして、まず第1に、診療所や病院がそれぞれの機能を発揮したり、安房医師会病院の積極的な活用を図るなど、一層の機能分担をしていくというものでございます。そして第2に、距離と時間の両面から考えまして、住民がひとしく格差なく医療を受けられるよう、特に館山保健所管内では、総合病院など高度医療及び救急医療に対する住民の熱望に応える必要があるということでございます。

この計画の推進に当たる安房地域保健医療協議会では、8月にワーキンググループを設置し、この計画の推進についての検討に入ったところでございます。館山市といたしまして、館山市立総合病院を建設し、維持することは各面から極めて困難でございます。今後市といたしましても、この安房地域保健医療協議会の検討推移を見ながら対応してまいりたいと考えております。また、医師会病院の関係及び救急医療体制の整備につきましても、この計画の中で検討されることになっております。

次に、大きな第3、文化ホールに関する御質問の小さな第1点目、県当局の現況についてでございますが、県との連絡調整は随時行っているところであり、今年度予定されております基礎調査は、これから実施すると伺ってお

り、施設の建設につきましては、平成7年度を最終年度とする「さわやかハートちば5か年計画」に位置づけられているところでございます。

次に、小さな第2点目、都市計画道路と市役所の建設場所との競合についての御質問でございますが、市庁舎の建設問題につきましては、今後の問題と認識しております。

次に、小さな第3点目、市民要望についての御質問でございますが、館山市文化団体連絡協議会や住民の会を初めとした各種団体及び地域住民の御意見、御希望を伺いながら館山市として取りまとめ、コミュニティセンターと相互の有機的な利用を勘案し、県当局に対し、積極的に要望してまいりたいと考えております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 福原教育長。

（教育長福原 修君登壇）

◎教育長（福原 修君） お答えをいたします。

大きな第1の小さな第4点目、若潮剣道大会の補助金についての御質問でございますが、去る8月の20日に実施されました第10回全国若潮旗争奪高校剣道大会は、本年度より関東から全国規模の大会に拡大し、北は山形県から南は熊本県まで175校、約1,400名の選手が参加し、盛会裏に終了いたしました。

18、19日の錬成大会を含め選手、役員の宿泊も旅館、民宿等34件、延べ2,100名程度となり、館山市の紹介とともに、観光面においても大きな成果を上げることができました。2年度以降におきましても、今年度と同程度の規模の大会が開催されますよう、今後若潮剣道会と十分協議してまいりたいと考えています。

また、野球、サッカーについても全国規模の大会が開催できないかとのことですが、現在のところ考えておりません。

次に、小さな第5点目、薪能を2年度以降も継続する考えはあるかとの御質問でございますが、文化福祉都市館山にふさわしい行事として今後も実施してまいりたいと考えております。

また、市民による謡と仕舞のサークルの育成についてはどうかとの御質問でございますが、貴重な御意見として今後検討させていただきたいと考えております。

終わります。

◎議長（福原 勲君） 辻田 実君。

◎26番（辻田 実君） どうもありがとうございました。幾つかの点について再質問をいたします。最初に、今道路の舗装並びに側溝の整備でございますけれども、ただいまの答弁でございますと、この道路の方の新設が2キロということと側溝の方が21キロ、11億円ぐらいということでございます。これらの解消でございますれば、そう問題にならないと思うんですけども、この市民の方からの要望、町内会からの要望、こういうものについての対応が十分でないと思うのですけど、こういう要望はどのぐらい、何件ぐらいたまっているのか、まず第1点に聞きたい。

2番目には、道路予算については、施政方針なり、市長の答弁の中では常に強化していく、これは早急にやらなければならない問題だということが指摘されておるわけなんですけれども、この点については平成2年度をピークにいたしまして、予算的に下がっておるわけでございます。これは、今年度の予算の中でも指摘しましたけれども、道路維持費については平成2年度から3年度に至るところの予算として152万マイナスです。それから、平成3年から4年にかけては836万円がマイナスになっておるのです、維持費についてですよ。それから、道路の新設改良費については、平成3年から平成4年、去年からことしですよ、平成4年度の予算について1億261万円が減になっているわけです。これらの数字というのは、大体平成元年以前の額に逆戻りしている感があるわけでございます。実態は道路を直してもらいたい、館山の道路が悪いということが非常に言われているんですけども、予算面では必ずしもふえておらないと思うんですけども、具体的にこの予算は——もう予算編成期に入っていると思うんですけども、来年は予算の数字で示してもらわないと。幾ら口でやります、やりますと言ったって予算が減っているわけなんですから、この点について来年は大幅にふやせるのか。特

に、この平成元年から2年については30%か40%ぐらい半澤市長はふやしているんです。それを契機にいたしまして、ウナギ上りに上がったんですけども、平成2年をピークにいたしまして、逆に漸減傾向にあるわけです — 予算面からですよ。だから、この点はやはり具体的に予算で示してもらいたいですけど、そういう検討はなされておるんでしょうか、この点についてお伺いしたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 建設部長。

◎建設部長（伊東 衛君） まず、件数はどの程度あるのかということですけども、ここに資料ございませんけれども、私の今までの経験の中で重複もございます。そんなことで40から50あると認識しております。

それから次に、先ほど市長が答弁いたしましたとおり、側溝については11億あるということなんですけども、実は毎年3億から3億5,000万程度やっております。そうしますと、あと3年か4年かなという感じなんですけども、ところが毎年の要望が1億5,000万程度あります。そうしますと、まだ7～8年先までの要望をクリアしなければならないと思っております。

それから、最後に予算が減っておるじゃないかということの御指摘でございますけれども、確かに平成3年から4年にかけての数字が減っております。これは、大型の道路改良 — 例えば8015であるとか、そういったものの大型予算がなくなりましたので、実際には皆様の方から、あるいは町内会等の要望に対しては増額しておるわけでございます。8015の場合には大きな排水路がありまして、それについてもメーター何10万もかかるというので、そこら辺からとりあえず予算的には減っておりますけれども、要望のものについては前向きに対処しておるつもりでございます。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 辻田 実君。

◎26番（辻田 実君） 市民の要望40件ぐらいということなんですけれども、私も幾つか出しているんですけども、予算の関係等で3年、4年とたっているのもあるわけなんですけれども、市長にこれお伺いしたいと思うんですけども、今道路の事情というのは非常に進んでおります。特にこの館山

市の周辺の白浜とか千倉とか三芳、丸山、ここら辺は農道等の関係もあるんですけども、かなり山の中まで道路がいと館山なんだかいよという話が非常にありまして、そういう面では館山市は面積も広いし、そういうことでおくれておるかもわかんないですけども、館山市としてはある程度進んでいると思うけど、他の町村から比べてちょっとこの点は低いんじゃないか。これは先ほど指摘しましたように、今回のこのルックたてやまですか、この中の要望でも、それから5カ年計画を作成するについての市民の中にも、やっぱり道路側溝を直してもらいたいというのが一番要望多いんです、70%ぐらいですよ。断トツに多くて、そういう面からいってかなり今の考えとギャップがあるんじゃないか。それで庄司市長は、市民の要望をいかに実現していくかということを再重点に市政を進めるということですから、これを進めないと、どうも市長はなかなか市民の言うことを聞いてくれない、こういうことになりかねないんじゃないかと思うんですけどね、この点どのように判断されておるのか。もう少し抜本的にできないか。——これは相当古い昔になりますけども、本間市長さんは頭へきて、それならやるの全部やっちゃえということでもって特別当時4億か5億ぐらいの起債、今にすると20億か30億ぐらいの起債をあれして、道路も全部やっちゃえということでもって大変なことをやって、その起債が後々響いて半澤市長大分苦労されたようでございますけれども、そのぐらい抜本的なものをやられたことを私は記憶しているんですけども、あれほどいかなくても、何かここ1～2年の間に市道並びに側溝の整備ということで重点的に、やっぱり市民が納得する線まで——そう大きな予算じゃないと思いますよ。大体今10億ぐらいというんですから、予算で大体6億ぐらいあるわけですから、これ倍ぐらいにしまして15億ぐらいのものをやれば、2～3年でもってかなり消化できるんじゃないかというふうに思うわけでございまして、そのぐらいのことだったら今の時期だったらできるんじゃないか、こう思うわけでございまして、この点どのように考えるか、ひとつお考えをお願いしたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

◎市長（庄司 厚君） 考え方におきましては、今の辻田議員のおっしゃる

とおり私も賛成でございます。ただ、今の御意見の中にございましたが、市道と市道に認定されないほかの道路が館山市内には随分あるわけで、周辺という言葉を使ってどうですか、周辺部に多い、そういう面の道路改良、補修にかけても大いにやろう、次の年度に取り入れようと考えているところでございます。また、御意見をちょうだいしたいと思います。

市民の生活環境の整備というのは、非常に大事なことでございまして、これは毎日の生活に影響するものでございますから、努力してまいりたいと思います。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 辻田 実君。

◎26番（辻田 実君） 道路のことについては、来年の予算の上にひとつ反映させていただきたいというふうに思っております。

2番目の福祉会館の件でございますけど、これはちょっとしつこいようでございますけれども、私は非常に市政に対して心配するんでございますけれども、確かに館山の福祉行政はいろんな面で進んだ点もあります。それから、コミュニティセンターをつくるということについても、あれコミュニティ事業始まる当初にあそこは労働福祉だとか、医療福祉だとか、そういうふうな形でもっていろいろな総合的なものが入ってコミュニティというのをつくったんですけど、あれもかなり全国的には早いレベルで実施してあの中に医療部門も入れたということで、かなり進んだ面もあるわけですが、今回市長さんの前回の議会、今回の議会から見ていって福祉会館を建てるのが今必要じゃない。建てなくてもそれに間に合うものは十分あるんだ。市民センターでも足りるんじゃないか、こういう考えであるようでございます。その考えは、ある面私は正しいかというふうに思います。

しかしながら、今福祉国家を目指して国も県もその目玉として市町村に総合福祉センターを全部つくっていくんだということでもってここ2～3年間どんどんつくっています。これは御承知のとおりなんです。それで、反面では進んでいる福祉行政でも、その建物が無いということは国、県の政策に私はある程度逆らうというんですか、そういう面が出てくるんじゃないかと思

います。実際、公民館活動においたって、学校教育においたって、校舎は立派じゃなくたって、公民館がなくたって、公民館活動ができるんだとか、昔寺子屋でも教育はできるんだと、こういうのがあったかしれないけども、しかし現代という中では、ちゃんとした校舎があり、ちゃんとした公民館をそれぞれつくらなきゃならない、こういうことになってくると、今も県の市の中でもってこの福祉センターが独立していないところはもう幾つもないわけです。これ以上頑張っても館山は何だということで、補助金だとかそういう情勢の中で取り残される私心配があると思いますよ。青年館だってあれ不必要だという意見もありました。でも私は当時えらい頑張りました、県下で第1号を館山へ持ってきて、どんどんつくって非常に喜ばれているわけでございますけど、あれも県全体ではあんなものをつくなくなっちゃって集集場でいいんだというようなことを言っておったけれども、しかしあれが1つの地域の拠点になるということで――私はここでもって理屈はどうあろうが、福祉を進めようということ、国の施策、県の施策を受け入れてやっていこう――館山みたいに地方都市においては、県、国の施策の上に乗ることが一番私はいいいことで、それをうまく利用するということもやっぱり市長のひとつの裁量だと思うわけで、そういう面でセンターがないということは、私はネックになると思いますよ。

今月号の県の広報、あれにも南総地区のトップに――半面ですよ、福祉センターが着々と進んでいますということで千倉町と鴨川全部やって、館山市載ってないですよ。みっともなくてしょうがないような感じがしたんですけども、なくたってできるんだということはもう通じない。市長さんよく言われているけど、これは必要不可欠なものとして福祉センターというものをつくるというふうにしないと、私は幾ら内容的にどうこうといっても、これは取り残されるんじゃないか、納得されない面も出てくるんじゃないかと思うんですけども、その点について再度お考え直しをいただけるかどうか、質問するわけでございます。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

◎市長（庄司 厚君） 基本的には、同感なんでございます。これからの時

代、総合的な保健福祉政策 — これは極めて重要なものでございまして、そのための拠点となる福祉会館的なものは必要なんでございます。現在におきましては、とりあえずは先ほど申し上げました市民センターあるいは保健センター、これを活用しながら総合的に腰を据えて考えていきたい。基本的には同感でございます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 辻田 実君。

◎26番（辻田 実君） 1つは同感ということでございますから、これは予算的な問題もあろうかと思えますけども、予算的な面といっても、これは非常に補助が高いわけです、国の施策ですから。それはやっぱり乗るべきだと思いますので、今後ひとつ協力して私もぜひ庄司市長のもとで福祉会館が完成することを願ってやみませんので、ひとつよろしくお願いいたします。

ゆとり宣言並びに若潮剣道については、御答弁のとおりこれを継続強化していくという方向で検討されておるようでございますので、ひとつそういった方向でお願いをいたしたいと思えます。

薪能の件でございますけれども、これは今教育長の答弁ありましたけれども、私は具体的にやっぱり — 謡は謡サークルというのがありますよ。私も10年ほど前に3年ぐらい謡というものを習いましたものですから、その会員数だとか、そのときの友だちというのも何人かいることを承知しておりますけど、数は非常に少ないです。能を見るには、やっぱり謡がわからなければどうにもなりません、謡は学校では教えませんので、特殊な音符というんですか、特殊な節回しであれを覚えるのに私は3年ぐらいかなり — 1週間に一遍ぐらい通ったんですけども、なかなかとてもじゃないけども初めの方さわりぐらいで、今やっている能の中のいろんな難しい曲になってくるとちょっともう手がつけられない、全くちんぷんかんぷんということでございますから。このちんぷんかんぷんなものであっても、やはり能そのものは日本の伝統文化としてすばらしいものである、これ一度、二度見るには非常に — このぐらいは興味があっていいなと思うけど、三度、四度見るとあれぐらい退屈なものは私はないと思いました。あの難しい第3次元の世界だと

か、第4次元の世界だとか、幽霊が出てきたり、そんなことでもってとても理解するのは難しい。これもう大学の相当——文学部ぐらいの人じゃなきゃあの謡の内容、内面的なものはもう理解できないと思いますよ。これはちょっと言い方は悪いけども。それぐらいのもんですから、これぐらい退屈なものはないということを私評論家の方に聞きました。

しかしながら、これを本当に研究してやっていると、これぐらい深い世界に起こる哲学、第3次元の世界、そういった美、これはないということがすばらしさであるわけですから、やっぱりそういうところまでもっていかないと見ておもしろい、また見たいという本当の感想が出てこないと思うんです。それがやはり7回やった中でもって切符が半分しか売れなくてしょうがないということでやめちゃって、今度は庄司市長さんは、学芸的な立場から取り組むという——今までは観光行事という立場からということだったんですけれども、そういう観点に立ったときに、私はやはりこの謡、それから能の非常に静かな動きの中に哲学的な決まりというのですか、仕舞というのですか、ああいうものも見ないと全くわからないわけですから、そういう面のサークルなり——これはいろんな英語教室だとか、いろんな陶芸教室だとか、いろんなのやっているわけでございますから、そういう一環としてやっぱり市が市民にやっていく。それである程度、そういうものを理解していく中で初めて定着するんじゃないかと思うんですけど、このままだ見ておもしろい、ああそれだということになると、やっぱり前回と同じように2年～3年先になってくると切符が売れないということになると思うのです。私はそうしたからじゃなくて、今回は観光的じゃなくて、学術的に取り組むということで、ぜひ来年からそういったサークルの育成、さらにはサークルの育成ができなくても社会教育課でもってそういった市民教室を開いて、そして何人かを募集して、そうしてそういうものを教えていく、そしてそういうものを理解する中で、能というものを見ると、こういうものにすれば、市民の薪能ということでもって発展するわけございまして、これは流山議員も前回質問しまして、非常に心配しておったわけでございますから、来年はそういうことを具体的にやっていただけるのかどうか、これは具体的な問題として

ひとつお尋ねしたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 福原教育長。

◎教育長（福原 修君） 謡や仕舞のサークルはぜひ必要であることは十分認識いたしておりますけれども、事務的にいろいろな手続等の問題等もございますから、その辺を考えながら検討させていただきたい、こう思います。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 辻田 実君。

◎26番（辻田 実君） 検討していただけるそうでございますので、私もできるだけ協力していきたいというふうに思っておりますので、声をかけていただきたいというふうに思います。

それから、次の項目の総合病院の建設について、これは館山市民の広報を見ても、とにかく年齢層さらには職業を問わず、とにかく救急病院を頼むと、こういうことでございまして、それを裏づけるように、やはり医療審議会の答申の中でも、館山は高次元医療について欠落しているということが指摘されているわけですから、これをつくらなきゃならないんですけれども、私は市長さんは——前回もそうですし、その前の斉藤議員に対すところの答弁の中でも総合病院をつくることは、いろんな面でもって不可能だというふうにもう放棄されておりますけれども、不可能は不可能ということでございますけども、具体的にいつてどういうことで不可能なのか、私はそういうことはないというふうに思うのですけどね。そういうの不可能だったら、医療審議会の中でもって第3次医療機関を館山保健所管内につくるべきだと、つくる必要があると指摘しているわけですから、医療審議会ですきないような不可能なところでもって、そんな指摘をするようないかげんなものじゃないと思うわけです。そこら辺、何をもって不可能だというふうにあきらめておるのか、そこら辺1～2で結構でございますから、教えていただきたいというふうに思います。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

◎市長（庄司 厚君） ただいまの御意見でございますが、ちょっと見解の相違がございます。住民の希望、あるいは私たちの願いとしまして、館山に

— 館山保健所管内に救急医療に対する病院が必要である、これは圧倒的な願いでございます。この救急医療って何だ — 脳と心臓でございます。その救急に対応できる病院が欲しい — いわゆる周りにある総合病院とはちょっと性格が違うかと思うので、そこのところだけ見解が違いますけども、そういうものは必要である。これは館山保健所管内挙げて、その設立に努むべきであると、こういう方向でこの医療審議会を活用していこうとしつつあるわけです。御了解賜りたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 辻田 実君。

◎26番（辻田 実君） 私も総合病院ができないというのは、第2次医療機関として病院を開設する場合には、館山市はベッド数余っているから、ベッドの許可ができないから病院はできないよ、こういうことがあるんだそうでございますけれども、しかしながら高次元医療を果たすものについて、それに伴うところの救急処置だとか、そういうものについてはまた許認可は別であって、私は県の医療機関の課の人に聞いたんですけどもね、それは別だと。病院つくるということについては、館山は困難でしょうと。しかしながら、そういった大学病院とか、国立病院とか、そういう形でもって第3次医療機関という形の中の設置については事柄は違ってきますよ、そこまで規制しているものじゃありませんから、こういうことを言われまして、やはり私はそういう面で何かそれがかたくなにできないような錯覚に陥っているんじゃないかというふうに、失礼ながら思っているわけですけど、市長が最後に言われましたように、この高次元の — これ今言われましたように、心臓、それから脳溢血、循環器疾患、それと交通事故による整形、この3部門というものはどうしても今必要だ、こういうことでございますから、そのための処置、その高次元の医療施設をつくるということは、必ずしも総合病院じゃなくたってできるわけでございますから、それは一致しているわけで、それをぜひつくらなきゃならないというふうに思っておるわけでございますけれども、今の状況ではなかなか私は困難だろうというふうに思います。それはやっぱり医療 — 病院というのはこれはひとつの経営です、企業です、病院といっても。どんなに優秀な医者がいて、どんなにいい診療しても、病院経

営というものをやっていかないとなかなか無理なわけでごさいます、館山病院だって30人近くのお医者さんと、そして従業員だけでも500人近くおるわけですから、その給料を払ったり、労務管理していく経営がきちっとしていなければ病院として存在しないわけでごさいますから、そういう面ではなかなか——医者の人たちは治療はうまくても、経営が下手なものですから、なかなか病院経営してもそのまま赤字出してだめになるというのが多いんであって、そこら辺は最近の医療事情の中から、やっぱり自治体なり、企業の営業マンというのですか、経営的に非常に手腕のある人がやらなきゃならないと、こういうことになってきているんじゃないか。それは今——だけど週刊現代という週刊誌があるんですけど、2～3日前に発行されまして、全国100の優秀な病院というのが出ておりました。関東の中で5つぐらい、その中に私は館山病院が入っていることを見まして、わあすごいなと思って、全部で5,000幾つある中でもって、東だけで100の中で館山病院入っているんです。千葉県で2つですよ。これはすごいなというふうに思いまして、そういう自慢するのがある。その中に出てくる座談会の中で指摘されていることは、病院というのは治してやるのではなくて、サービスだと。その患者さんの意見を聞いて、そしてそれにどう対応するかという、これが今の事業だと。昔の医者はおれの言うこと聞いてやれということでもって、一方的に患者の言うことも聞かないで治療していると、こういう病院みんなつぶれていきますということを座談会の中で出てきているんです。そういう面では、病院というのは新しい患者のニーズに応えて、その人に応える治療というものが必要であって、決して高次元云々という問題じゃないということが書かれておったわけでごさいます。

そういう面から考えていけば、私は今館山でもって問題なのは、そういう病院経営に対する経営者をどうして生むかということが問題だろうと思うんですけど、そういう面でやはり私は、安房医師会の幹部の2～3の人に聞いたんですけども、やっぱり自治体の方で経営をやってもらいたいと。安房の医師会の方としては治療の方を専念して、二頭立てでやらなきゃだめですから、どうですかということをお聞きしましたし、そういうことをお願いに各町

村回ったそうでございますけど、役員の方が。そういう点で、市はそういった経営というんですか、そういうものに対してどのように受けとめられておるのか、お伺いしたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 助役。

◎助役（小幡清之君） 今の御質問のような点につきまして、御承知のように安房地域保健医療計画推進のためのワーキンググループというものがつくられまして、2回会合をもったわけでございます。そのワーキンググループの検討の中で、協議会で審議するたたき台をつくっておこうということで、その中で今おっしゃったようなことも含めて、これから検討していこう。まだ始まったばかりでございまして、この8月21日に第3回目をやるというような状況になっているところでございます。ですから、そういったものは今後その中で大いに論議されてよりよいものを目指していくというふうに考えております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 辻田 実君。

◎26番（辻田 実君） 時間がございませんので、まとめて申し上げますけれども、ひとつまとめて御答弁をいただきたい。

1つは、この8月の22日の朝日新聞に大きく出ておったんですけれども、県の地域保健医療計画の推進に当たってということでもって4段抜きの記事が出ておりますけども、この中に県民生部では地域の主体性が重要と強調して、ただ地域を誘導するには起爆剤となる行政の予算措置も不可欠であり、計画の――医療計画です、進捗は県や市町村がどれだけ積極的に取り組むことができるかというところにかかっているというふうに出ておるわけです。こういう面で、やはりこの新聞でもそういう論説が出ているぐらいに、もう医療協議会の答申は、1にも2にも市町村のかかわりだということを、県の衛生部でも認めているということでもって出ているわけでございますから、この点どのように考えるか。

2番目に、医療審議会の中でもって安房の医師会病院はなかなかすばらしい役割を果たしたけれども、現時点の高次元医療ということでは非常におく

れておる。そして、この新聞にも出ているわけですが、医療協議会の答申の中で出てきたように、もう安房医師会病院は老朽化しており、そして高次元医療という面から改善しなきゃならない点に立たされているということが、ちゃんと名前でもって明記されています。新聞にもそれ出ております。この点については、やはりどういったように考えておるかということ。

それから3番目に、今助役が答えた保健医療協議会のワーキンググループでもって云々と言っていますが、これについて私はかなり不満を持っています。これ全県的に8つの医療区でもってできております。安房医療区は委員が13名、一番少ないんですよ、これ極端に少ない。一番多いところは山武郡市でもって71名、安房が一番少ない。このワーキンググループというのは医者だけではなくて、地域の住民の要求も入れるということを前提にして組まれているが、安房の場合には医者ばかりで入っている。それで、館山市からは助役だけしか出ておらない。例えば千葉の医療圏では、千葉の市議会議長と市議会議員も入っております。こういう点では、全く議会は蚊張の外、そういうような意見も組み入れられないところに問題がある。この点については、1つはこの医療協議会はいろんな意見を聞くと言っているが、そういう層が偏っている、数が少ない、議員の代表も安房の場合には入っていない、一方的には問題があるんじゃないかと、ここら辺についてはひとつ十分検討していただきたい。

時間がありませんので、これで終わります。

◎議長（福原 勤君） 小幡助役。

◎助役（小幡清之君） 1番目の市町村のかかわり合いということですが、確かにいろんな面で、資金的な面も含めて市町村がやっぱりかかわっていくことになるんじゃないかなと。まだしかし、それは公にはっきりかかわっていくということは、今後の討論を進めていく中でどういうふうに資金的な面は考えていくのかということは今後の課題であるということでございます。

それから、医師会病院の老朽化ということにも触れているということですが、これは今までの2回のワーキングの中で、医師会病院の取り扱いはどうするのかというような問題も出てきております。しかし、それらはここで医

療計画の中でいっている救急に対応できる総合病院的な施設を安房で整備していく、その中で医師会病院も同じにとらえて考えて、その中で考えていこうというようなことで進んでおります。

それから、ワーキンググループのメンバーでございますけども、これは事務局が保健所でございます、このメンバーの選定については医師会代表、病院代表、それから経済界の代表、住民代表、市町村代表ということで私も入っているわけですが、これは市に推薦を依頼されたとか何とかということではなくて、県の方で選定してきたということでございますので、御理解をいただきたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

◎市長（庄司 厚君） ただいまの最後のワーキンググループにつきましては、とりあえずたたき台をつくる。その後ワーキンググループを一回解散して、もう一回大規模に組織し直すと、こういう方向はついているんでございます。現在は第1段階のたたき台をつくるという段階ですので、御了解賜りたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 以上で26番議員辻田 実君の質問を終わります。

次、9番議員脇田安保君。御登壇願います。

（9番議員脇田安保君登壇）

◎9番（脇田安保君） 9月定例会の審議に先立ちまして通告してございます諸点について御質問いたします。

まず第1点の環境問題についてですが、最近の環境汚染は、地球規模で取り扱わなきゃならない諸現象——すなわち温暖化、オゾン層破壊オイルや酸性雨などが出現することになって20年前には想像できなかった諸問題に直面しています。

さて、21世紀後半の世界各国の経済活動は目覚ましいものがあります。そのための化石燃料の消費が加速度的に増加し、その結果大気汚染は急速に進み、その被害が顕在化して人類の大きな社会問題に発展しています。我が党は、3月に環境問題セミナーを開催しましたが、そこで強調されたのも1人1人のライフスタイルの転換であり、生活の見直しでありました。よく指摘

されているように、今の日本は大量消費、大量廃棄社会であります。1989年に全国で出されたごみ、一般廃棄物の量は約 5,000万トン、東京ドームにして 120杯分にも達しています。日本は、米国に次いで世界第2のごみ排出国なのであります。これは、大量生産、大量浪費の社会の仕組みが裏表の関係にあるということです。政府や自治体が幾ら音頭をとっても物の浪費の構造は変わらない。省エネルギーも全く進んでいない。そして毎年大量に伐採されたアジアの熱帯林が我が国に輸入され、建築用のコンパネとなり、それが 1～2回使用されたただでのごみとして捨てられてしまうように、日本の浪費、廃棄社会の構造は、我々が意識するしないにかかわらず、アジアなど途上国の資源を収奪する形で進行しているのであります。その構造を変えるにはどうしたらよいか、迂遠なようであってもやはり 1人1人の意識が変わること、そして生活のありさまを見直していくことから始まると思います。

さて、5月に横浜市で開かれたアジアNGOフォーラムで報告したある主婦は、電力不足といっても夏場の10日間程度、これがごくわずかの時間だけを電気を使わない運動をとピークカット運動を始めたのです。そして、絶対に無理しないを合い言葉に楽しく活動を進め、案に1割の電力カットができたと話しています。生活の場からのこうした問題提起や、我々1人1人が現在と未来の世代と環境に対して責任を担っていると自覚するときに大きな力となり、広がりを持つのであります。このように考えていくと、地球の環境の問題といっても、実は1人1人の生活の改善と深く密着しているのです。住民がどのような意識を持っているかによって環境は大きく変わるのです。

そこで質問であります。現在市民の環境問題の意識について、市長はどのように考えていますか。また、市民の意識の啓発についての対策についてはどうですか、伺います。

次に、館山駅の橋上駅及び駅周辺の開発についてですが、この問題につきましては、さきに小宮議員の質問がありましたが、私は別の点から御質問いたします。既に御承知のように、館山駅東口に国鉄清算事業団が所有している約 5,000平方メートルの土地が売却用地として整地されることになったと聞き及んでおります。この土地がどのように売却され、将来どのように活用

されていくかということは、少なからず今後の市民生活にとっていろいろと影響をしてくるものと考えられます。まず、橋上駅をつくる場合や通路による階段部分の土地、数百平方メートルが必要となってくるのではないかと言われております。この橋上駅はかなり以前から市民の声や各種団体からの要望もあるようです。現在の駅を橋上化すれば、東口から西口へ降りる人の利便も一段とよくなることは明らかであります。この将来橋上化を考えているとすれば、そのために必要な土地の確保については市はどのように考えているのかという問題になるのですが、市行政としてはどのように検討されていますか、お尋ねします。

また、この東口駅周辺には、今までＪＲ関係の会社やそれ以外の会社があり、このたび売却に向かって話が進んでると承っています。館山駅東口は、館山におり立って一番初めに目につく場所であり、館山市の顔とも思われる場所は今後どのような姿で開発、整備されていくかということは、市民は大変関心を持って見詰めているわけです。

そこで質問ですが、行政としてはこの点どのように考えているか、お尋ねいたします。

次に、館山工業団地の開発造成についてです。地元の住民からいろいろな要望が出ていると思います。それらの要望は次のとおりです。１、稲地域内に居住し、造成によって影響を受ける住民全戸の事業の同意を得ること。２、農業用水路の稲川水路を改修すること。３、農業用水稲堰の漏水防止のこと。４、排水路は工業排水、生活排水も合わせ、放流可能な能力を保つ水路を設置のこと。５、農業排水は調整池に放流せず、排水路に流すこと。６、稲区の市道、生活道、農道の全面舗装をなすこと。７、既存道路の排水不整備があるので、排水口を取りつけること。８、地下水（深井戸）のくみ上げを禁止する。９、稲区環境整備としての実施のこと。稲集会場の移転、新築。西部のＪＲ踏切の拡幅、東部の生活排水路の取り付け、また東部工区の同意と腰越、広瀬、山本各区の同意を把握のこと。

以上であります、この要望等につきましては、市としての対策方を地元知らせてあると伺っていますが、この中でやはり大きな問題は、排水路に

ついでに計画であろうと思われます。この排水路につきましては、過去に基盤整備を行ったとき行政の説明では、これだけの排水路であれば水はあふれませんと言ってつくった排水路が、実際には普通の雨が降っただけであふれ、田畑は冠水した。一部の人はこれを見て、行政のやることは余り信用できないと言っています。今回の排水路についても、実際の過去の雨量を計算していろいろ検討していると思いますが、この点に関しての計画をお尋ねします。

次に、去る9月10日に行われました地権者との話し合いは、どこまで進めたのかという点から質問するのですが、話し合いの中でどのような問題点が提起されたかお答え願いたいと思います。

次に、週休2日制に関してどのように対応していくか。中央官庁先行で始まった完全週休2日制も、市町村などの地方自治体では若干おこなっているのが現状です。この理由は、地方ではまだ週休2日制が普及していない。また、行政サービスが低下するおそれがあるということです。自治省の方向は、土曜閉庁を進めています。この制度の導入がサービス低下につながるなら、市民の反発は避けられないように思います。

さて、国家公務員の完全週休2日制は、ことしの5月から実施されています。これを受けて、自治省は地方公務員も週休2日制を採用するよう自治体を指導してその実施状況をまとめました。それによると、都道府県の場合は9割の43団体が9月までには週休2日制に移行するとしているのに対し、市町村の場合は半数の51%は年度内実施のめどが立っていない。住民サービスに直接かわる市町村の場合はなおさら。9月までに週休2日制が実施できる自治体は15.5%にとどまり、10月から12月が17.3%、来年1月から3月が16.2%となっています。残りの自治体は来年4月以降の実施か、実施時期が未定であるというようになっています。週休2日制に踏み切った市町村も、土曜閉庁に伴うサービス低下についてはいろいろと工夫をしています。例えば、金曜日は窓口を夜7時まで開けるようにしたり、郵便でも住民票が取得できるようにしたり、またキャッシュカードのような住民カードを交付して、これを市役所に備えた自動交換機に挿入すれば、必要な書類が受け取れるような機械化に踏み切ったところもあります。さらに、郵便局の専用回線を利

用してファックスで書類請求のできるシステムを開発したところもあります。

さて、公共団体の週休2日制導入は、人員増につながらないということが鉄則であろうと思います。また、人手をふやさずサービスの低下を抑えらるとなると、それなりの努力が求められるのであります。私たちの身近な安房郡内の町村も、国の動向に相呼応して完全週休2日制の11月実施に向けて動き出しているようです。そこで本市としては、この週休2日制に関して具体的にどのように考えているか。また、どのように対応しようとしているのかをお尋ねいたします。

次に、国民健康カードの実施の検討はその後どのように進められたかという質問です。3月議会に私が提案した国民カードは、テレホンカード大の小さなカードに過去の病歴や検査結果、服用薬の種類などを記録させて治療に利用していくもので、生涯にわたって健康情報を管理できるものであります。この健康カードの実施はできないかという私の質問に対して、市の答弁は次のようなものでした。「市といたしましては、カードによる健康管理は将来的に必要と考えておりますが、現在はデータの入力、出力等の課題もございますので、県の方針を見きわめながら対応してまいりたいと存じます。」という市の当局の答弁でした。さて、国の方針を見きわめたらということですが、国の方では着々とカード化の方向は固まりつつあります。こうした状況の中で、市として施策の準備をなさった方がよいと思いますが、この点について市の対策をお聞かせ願いたいと思います。

次に、学校5日制の諸問題についてお伺いいたします。この制度は既に実施されているわけですが、この学校5日制が家庭、地域、学校における土曜日、日曜日のあり方を根本的に問い直し、より人間らしく生きるゆとりと充実した生活を実現していく重要な制度であると考えます。また、教育委員会や学校にあっても、学校教育を大胆に見直すいい機会でもあり、子供の教育に対する親の意識の改革と地域における新しい教育環境づくりを地域住民の将来学習の意識を高揚させるためのよい機会であると思います。

一方、この制度については教育水準の低下や過度の塾通い、また子供の問題行動がふえるのではないかという心配もあります。それだけに、学校5日

制の導入に当たっては学校、家庭、地域社会が持つ教育機能の特性を十分に生かし、三者の教育努力の適正なバランスのもとに、21世紀に向けて個性を生かした教育の充実と心豊かなたくましい児童を育てていくことが大事であります。

そこで、児童、生徒はこれらの社会を心豊かに生きていくためには、自ら学ぶ意欲と社会の変化に主体的に対応できる能力の育成と、個性を生かした教育を充実することによって、教育水準の維持と向上を図ることが必要であります。ゆとりの時間をどのように生かしていけるのか、この点、市はどのように推進していこうと考えているのか、お尋ねをいたします。

また、この制度はスタートしたばかりであります。学校教育に見識の深い市長さんは、いろいろな施策をされていることと思いますので、その考えをお尋ねいたします。

次に、この5日制のスタートと民間企業とのタイアップについてですが、私の調査によりますと、鴨川市内の海獣水族館の鴨川シーワールドでは、9月12日から実施した学校5日制に伴い、文部省が推進する9.12キャンペーンに協力して社会教育的施設として高校生以下の入園を無料とするほか、特別出し物を行っています。このような5日制に対して、民間の企業はこれからふえていくと考えられます。このような事柄について、市長さんはどのような考えをお持ちですか、お尋ねいたします。

次に、文部省の方針の複数教員がチームを組んで1つの学級を教えるチームティーチングについてですが、御存じのように特に小学校の算数や中学校の数学、英語等学力差の生じやすい教科には、大いに期待できるシステムと思います。例えば、多くの子供がつまずきやすい小学校の分数の学習で、クラスを2つに分けて2人の教師が教えるとか、1人が教壇で説明する間に1人が子供の間を回って行き届かない点を補うなどの方法が想定されます。文部省では、教職員増員などを盛り込んだ公立小学校の第6次教職員配置改善6カ年計画をまとめたようです。こうした教育方針についての市長の御見解をお尋ねするものです。

次に、日ごろ市民から私の手元に寄せられております要望について、その

緊急度の高いものから4点選びまして御質問申し上げます。

まず、在宅福祉を紹介するビデオ作成はできないかという質問ですが、この件につきましては、私の調査によりますと、富津市ではこのほど各種在宅老人福祉サービスを紹介するビデオ、「幸せはみんなで」を作成しました。ドラマ仕立てでショートステイなどの老人在宅介護への補助制度を開設、利用促進しようというもので、県内市町村では初めての試みです。この内容としては、父親を抱える若夫婦が急な出張と泊り込み同窓会に出かけることになり、さてどうしよう、たまたま手にした市広報紙にショートステイの案内が載っていたことから、父親は市の特別養護老人ホームに預けることになったという設定で、画面はここから当施設の説明が入ります。ここで入所に必要な書類作成からホームでのサービス内容、退所までが詳しく解説されています。係では、老人福祉を明るく表現して施設の紹介をしていますと言っています。関係者の評判も上々で、多くの市民に見てもらいたい自信作だと話しております。このような福祉サービスを紹介する自作ビデオ作戦についてどうですか。

次に、図書館のコピー料金についてですが、市立図書館コピー料金20円は高過ぎるんじゃないかと思います。一般の営利を目的としたコピーサービス、またコンビニエンスストアでも大体1枚10円、中には7円というところもあります。市立図書館のコピー代もせめて1枚10円にはできないかという市民の声があるのですが、この点どう考えますか。

次に、平砂浦に公衆トイレの設置はできないかという質問です。市内のこの地域には公衆トイレがありません。そのため、行楽客がつい草むらを利用することが多いのです。特に海水浴シーズンになると、環境衛生上好ましくない状態になります。トイレの設置を考えていただきたい。最近の公衆トイレは大変に改善をされ衛生的でもあるし、またトイレの建物のデザインまで工夫されているものが目立ちます。トイレという暗いイメージから、明るいイメージづくりが工夫されています。こうしたことから、トイレが不足している地域にはぜひ考慮をしていただきたいと思います。この点はどうか。

次に、公共施設の使用時間の延長についてですが、市内の公共施設の多くは夜間の使用時間が5時から9時となっています。これを借りる側から考えると、9時閉館では時間が少し早過ぎるのです。特に夏などは10時ごろまで延長していただきたい場合が多いのです。ですから、利用者の要望で使用時間の幅を持たせて運用ができないものかと考えますが、この点はどうでしょうか。

以上、御質問申し上げました。御答弁によりまして再質問をさせていただきます。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの脇田議員の御質問にお答えいたします。

大きな第1、環境問題についての御質問でございますが、今地球環境保全は人類共通の大きな課題となってきました。館山市の貴重な財産でございます自然環境を守るためには、市の行政はもちろんのこと、市民1人1人が環境問題を自らの生活に直結する問題としてとらえ、行動していくことが肝要であると考えます。

環境問題に対します市民の意識は、クリーン・アンド・ビューティフル運動への積極的な参加の呼びかけ、古紙回収事業、合併浄化槽の普及、推進等、家庭でできる浄化対策の実践行動を通じて年々高まってきていると感じております。館山市におきましても、快適でゆとりある生活環境都市づくりを目指して諸施策を推進しているところでございます。今後も安心して暮らせるよりよい環境づくりのため、環境保全対策を図る所存でございます。

大きな第2、橋上駅及び駅周辺の開発についてお答えいたします。まず、将来的に橋上駅を考えているのかとの御質問でございますが、さきの小宮議員に御答弁申し上げたとおりでございます。利便性に富んだすばらしい施設の実現に努力してまいりたいと考えております。

橋上駅舎の足場用地等の確保についての御質問でございますが、足場の位置等につきましては、今後検討を進めてまいりたいと存じております。

次に、大きな第3、館山工業団地に関する御質問でございますが、まず排

水路の改修計画につきましては、開発に際して千葉県の開発基準等に基づき、調整池から一部排水路を新設するとともに、既存の稲川排水路の整備を予定しているとのことでございます。

去る9月10日に行われました、稲地区の地権者に対します説明会の状況についての御質問でございますが、説明会は、千葉県企業庁が工業団地区域内の地権者及び進入道路に関係する地権者を対象に、事業計画及び進入路に関する説明を主に行いました。今後は測量調査等に入るとのことで、地権者の皆様方の御了解をいただいたところでございます。

次に、大きな第4、週休2日制に関してどのように対応していくのかとの御質問でございますが、現在社会の大きな流れでございます週休2日制の導入に当たりましては、住民サービスを低下させないように事務処理体制の整備、改善を図り、住民の理解と協力を得るため、慎重に検討しているところでございます。

また、週休2日制に移行した場合の窓口部門の対応といたしましては、他市町村におけるサービスを参考に、館山市の実情に即した対応策を検討してまいりたいと考えております。

次に、大きな第5、国民健康カードの実施の検討についての御質問でございますが、市が実施します検診のデータは、現在も市及び医師会病院で個人ごとに管理し、診断・訪問指導等に活用しております。

厚生省におきましては、今年度から姫路市をモデルにカードシステムの実地実験を行うと聞いておりますので、それらの動向を見きわめて対応していきたいと存じます。

大きな第6、学校5日制の諸問題、第7、5日制のスタートと民間企業のタイアップ、第8、文部省方針の教員複数制について、これにつきましては、教育長より御答弁申し上げます。

次に、大きな第9、在宅福祉サービスを紹介する自作ビデオとの御質問でございますが、市民へのPRの方法としてビデオは1つの方法かと存じます。市といたしましては、広報等で従来から福祉制度のPRを図っておりますが、さらに社会福祉協議会と協力し、「福祉のお知らせ事業」で各種福祉施策、

サービスをまとめた小冊子を市内全戸に配布し、福祉制度のPRを図ってまいりたいと考えております。

次に、大きな第10、図書館のコピー料金につきましては、教育長より御答弁申し上げます。

大きな第11、平砂浦のフラワーライン沿いに公衆トイレ、この設置はできないかとの御質問でございますが、フラワーライン沿いの公衆トイレにつきましては、既に3カ所に設置されております。しかしながら、位置的な問題もございますので、今後平砂浦地域全体の整備計画を考える中で検討してまいりたいと思います。

次に、大きな第12、公共施設の使用時間の延長、コミュニティセンターに関する問題、これにつきましては、教育長より御答弁申し上げます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 福原教育長。

（教育長福原 修君登壇）

◎教育長（福原 修君） 大きな第6、学校5日制の諸問題についての御質問でございますが、まず最初に教育水準の低下についてでございますが、各学校において教育課程の編成に工夫を加え、授業時数を確保するなど、教育水準の低下を招かないよう努めておりますので、そのようなことはないと考えております。

次に、ゆとりの時間をどのように生かしていけるかとのことでございますが、子供たちは休業日になる土曜日は、家庭でゆっくりと過ごすことが基本であると考えております。家族と団らんする、友達と遊ぶ、労働をするなど自分で選んで多様な体験活動をし、自由に過ごすことによりゆとりある充実した生活を送ることができるものと考えております。

次に、大きな第7、民間企業とのタイアップについての御質問でございますが、今回館山にありますセントラルスポーツクラブ館山—スイミングクラブでございますけれども、のプール無料開放の協力をいただいているほか、公共施設においても各種事業の開催と施設の無料開放をいたしております。

大きな8の文部省の方針の複数教員についての御質問でございますが、文

部省の第6次教職員配置改善6カ年計画によれば、今後の教職員定数のあり方が新しい指導方法を実施するための教職員配置、多様な教科選択を可能にするための教職員配置、きめ細かな教育指導のための教職員配置という教職員増員の方向づけがなされておりますが、複数教員配置もその一環と存じます。現在、県からの特別な通知もございませんので、今後の研究課題かと考えております。

次に、大きな10、図書館のコピー料金20円を10円に引き下げできないかとの御質問でございますが、現行料金は機械の維持経費、県下各図書館の現況を参考に料金を設定しているところでございますが、引き下げにつきましては、今後検討させていただきたいと考えております。

大きな12、公共施設の使用時間の延長はできないかという御質問でございますが、コミュニティセンターの使用時間を夏季期間だけでも延長できないかとの御質問でございますが、現在午後9時をもって閉館をしておりますが、今後は利用団体の意見を聞きながら前向きで対処してまいりたい、このように考えております。

終わります。

◎議長（福原 勤君） 脇田安保君。

◎9番（脇田安保君） まず第1点目の環境問題につきましては、ただいま御答弁いただきましたが、最近の学説では、オゾン層の破壊は今後20年間悪化し続ける。フロンガスが全廃されても50年間戻らないという、このようなことも言われておるわけです。こうした中で、私たちも自分のできる対策を足もとからやはり固めていかなきゃならない、そのように思います。

先ほど、市長の答弁がございましたけれども、地道ではありますが、一歩、一歩環境問題に取り組んで対策方を願うわけであります。環境問題については、これで終わりにしますけれども、またいろんな問題等ございますけれども、改めてこの環境問題大分深い問題がありますので、改めて議論していきたいと、このように思います。

次に、橋上駅の件でございますけれども、これは先ほど小宮議員から市長のすばらしい御決意をお聞きしましたので、私はあえてしませんけれども、館

山市は本当の行政の上においても安房の中で中心的な市であるわけです。それで他市から一步も二歩も進んだ文化都市であります。このようなことで、鴨川市でもある新聞には橋上駅ということを報道されていた文章を読みました。現在鴨川市もその自由通路をつくっております。その中で、やはり中心は館山でありますから、鴨川市からおくれをとらないように、その実現に向かって早々と手を打っていただきたい、これを要望いたしまして、先ほどの答弁で御理解いたします。

次に、館山工業団地の質問でございますけれども、これは安房郡の中核都市としてこの工業団地をつくるにおいて、ほかの産業にもすごく影響力を及ぼすような状況であります。ましてや若者が都会に流出をとめるような雇用のその場所を――雇用の機会を確保していくような本当のすばらしい工業団地につくっていかなくやならんと思います。その中で、いろいろと進入路の検討が何コースかに分かれて検討されてきましたけれども、今回地元の地権者に説明されたということですが、その進入路についての説明、どこから入ってどこのルートを通して団地内に入っていくのかをまずお聞きしたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（小沼 晃君） お答えをいたします。

進入路のルートでございますけれども、稲地区内の国道 128 号線のあるところは稲踏切と申し上げますのでしょうか、五差路の交差点がございますが、そこから三芳方向へ市道 8038 号線がございますが、その境橋手前から左へ入りまして、国道及び JR の内房線を高架で越えます。稲村城址の城山中腹を通過し、稲村堰を右に見まして宝贝地区から稲地区へ連絡する市道 9008 号線に接続し、工業団地の北面に接続する計画となっております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 脇田安保君。

◎9 番（脇田安保君） そうしますと、三芳に通ずる市道 8038 号線ですか、これに接続してそこから進入するということですが、そうしますとこの 8038 号線は、御存じのように広域農道で現在市道になったわけですが、

最近特に交通量も多くなりまして、道幅も余り工業団地に入る道路よりも狭いというような感じも受けるんですけども、そうするとまた団地に入っていく交通量と現在通っている交通量を加味しますと、大分量が多くなる。また、危険な度合いもさらに多くなってくるんじゃないかと思います。それでこの道路の改修 — 市道の改修については考えているのかどうか。

また、先ほど地権者の説明会を行ったということですけども、開発地域と進入路は要するに9月10日の日に説明会を行いましたけれども、肝心の排水路 — 排水路の地権者というんですか、その関係した人たちの説明あるいは開発計画というんですか、排水路の計画についてはどのように計画されておるのかお尋ねします。

◎議長（福原 勤君） 建設部長。

◎建設部長（伊東 衛君） 当然、一たん三芳の方へ向かいましてターンをします。そんな関係で、道路幅は必要に迫られると思います。道路幅を拡張せざるを得ないと思います。そんなことで考えております。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（小沼 晃君） 排水路にかかわります地権者の方の説明会ということでございますが、御質問にありましたように、10日の日は進入路とそれから区域内の地権者の方々の説明でございまして、排水路関係の地権者に対します説明につきましては、今後計画を進めていく、こういう予定でございます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 脇田安保君。

◎9番（脇田安保君） 排水路に — 一番大事なところでですけども、これにかかわることで何点かございますけども、その前に本年度から県の事業でことしの3月議会で事業化されて、この工業団地を今後どのような開発計画あるいは工場が完成するまでの大まかな全体的なスケジュールについては、わかりましたらばお答え願いたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（小沼 晃君） スケジュールについての御質問でございますが、

これは企業庁の方から一応私ども資料いただいております。ただ、これはあくまでも標準的と申しましょうか、そういうことで計画が組まれておりますので、今後の進捗状況によっては変動してくるということをあらかじめ御了解をいただきたいと思います。事業年度は、平成4年度から平成12年度を想定をいたしております。主なスケジュールで申し上げますと、用地取得を平成4年度から平成5年度にかけて行いまして、この間に測量等の調査も行っております。環境アセスメント調査は、平成5年度から平成7年度に行う予定でございます。

企業の誘致活動は、平成4年度から実施をいたしまして、早ければ平成6年度には進出企業の選定を行う予定となっております。進入道路につきましては、平成5年度から平成9年度にかけて行う予定でございます。

それから、工業団地区域内の造成工事は平成9年度から12年度にかけて行う予定となっております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 脇田安保君。

◎9番（脇田安保君） 大体のスケジュールをお聞きしましたけども、完成が12年、8年後かなと思いますけども、やはり一番問題は用地の取得かなと思います。それでこの進入路に関する問題と、先ほど言った排水路でございますけども、その排水路については、現在ある稲排水路を通して竹原川ですかね——稲排水路は竹原川に接続されているわけです。その先が滝川という河川の名称ですけども、このことに対しては私も1～2年前にちょっと記憶あせたんですけども、前に滝川の改修工事のことをちょっと触れたことがあったんですけども、そのことについては、今回はどこまで計画されているのか。それも今回のこの竹原川と滝川の排水に関しては、計画の中に入っているのかどうかお聞きします。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（小沼 晃君） お答えいたします。

滝川の改修計画でございますけれども、これは工業団地の計画の中で対応するというものではございませんで、現在滝川につきましては、昭和50年か

ら館山土木事務所で下流の方から改修を行っているところでございます。しかしながら、上流までは相当の期間がかかるであろうということから、今後は箱橋付近の暫定的な改修について、県の方にいろいろをお願いをしてまいりたいというふうに考えております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 脇田安保君。

◎9番（脇田安保君） これは何度も取り上げたんですけども、工業団地ができたときに下流の河川もやはり併合して完成しないと、やはり災害が起こるのは目に見えて明らかであります。でありますから、別途とは言わずに、とにかく県がやる両方同じ仕事でありますから——県がやる仕事であります。ですから、やはり同時進行でこれはしていかないと大変な事態が起こるんじゃないかと、そういうふうに周辺の人たちは——現在その滝川に住んでいる方なんですけれども、現在ですら普通の雨ですら自分の宅地の際まで削りとられているわけです。それで、敷地寸前まで水があふれる状態が続くわけです。ですから、いろいろ上流でそのような団地が造成されたときには、今以上の水量になるかと思えます。でありますから、そのような感じで同時に工事の施工方を要望いたします。

それと、あとは工業団地内のことなんですけども、1～2点お聞きします。これ先ほどの説明では、企業の選定を本年度から平成6年度を目途に進めていくんだという話ですけども、せんだって秋山議員の質問の中で、今回の分譲方式がオーダーメイド方式に変わったというお答えございました。今までは区画分譲方式、そのようにして企業決まらなくても先に造成し、区画してそれで販売していくんだ。それがことしになってからこのオーダーメイド方式ということで変わりましたけども、これは何か利点があるいは何かの方法が変わってこのようになったのか、その点まずお聞きしたいのですけども。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（小沼 晃君） オーダーメイド型の開発につきましての御質問でございますけれども、従来は御質問ございましたように既に造成したものを分譲するという形だったわけでございますけれども、今回はいわゆるイン

ダストリアルパークと申しましょうか、緑をふんだんに取り入れた環境重視型の林間工業団地の造成ということでございます。したがいまして、企業が実際に進出しまして造成が既にできておりました場合に、場合によっては手戻りとか、また緑地の配置等にいろいろまた違ったものが生じてくるというようなことも想定されますので、そういう意味でまず進出企業を選定いたしまして、企業の考えにあわせて造成をしていく、その方がベターであろう、そういうようなことでオーダーメイド型ということを導入したというふうに伺っております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 脇田安保君。

◎9番（脇田安保君） そうしますと、先に企業を選定するということでありますから——今御存じのようにすごく不況であるわけです。企業としては、やはり今の状況下ではなかなか——人員削減を大手企業は今進めている段階であるわけです。ですから、そうしますとやはりここまで出てくる——館山です、出てくる条件としていろいろあるかと思うのです。その時点であと5年、6年ですけれども、これが進出企業が決まらなかった場合には——例えば1企業で、もう造成していくのか。また、要するに全予定企業が決まっていかなければこの造成工事を進めないのか。それと、館山まで出てくる条件としていろいろあるかと思うんですけれども、条件はやはり千葉県の中でも一番地理的に都心から遠いという悪いイメージですか、あるわけなんですけれども、その中であえて出てきてもらえたわけなんですけれども、企業としては何をメリットとしてここまで出ようと考えているのか、その辺をPRの中で何を強調していくのか、お聞かせ願いたいんですけれども。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（小沼 晃君） 御質問のように、確かに現在は厳しい経済状況下にあることは私どもも承知はいたしております。ただ、日本の企業というものは非常に底力が強い。過去の歴史を振り返ってみましても、1つのサイクルの中で、沈みがあればまた浮上してくる。そういうようなことで、日本の経済のいわゆる力というものは強いものがあるというふうに、これは調査

等でも証明されているところでございます。そういうことで、企業庁の方のお考えを伺いまして、そう悲観はしていないというようなことでございます。

それと、館山工業団地のこれはメリットでございますけれども、最近はいわゆる労働環境というようなものが非常に重視されてきておりまして、既存の企業におきまして緑化を進めるとか、公園化を進めるとか、そういうようなことが行われているわけでございます。このいわゆる林間型の工業団地というようなものは、県内でもこれは有数のものでございますので、そういう意味から企業としても進出をしてくるメリットは十分あるのではないかと。また、逆に私どももそれをPRをしていきたい、このように考えております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 脇田安保君。

◎9番（脇田安保君） ぜひとも早い時期の完成を期待しまして、この問題は一応終わります。次に移ります。

次に、週休2日制に関してですけれども、この問題に関しては3月議会でも私は市民サービスということで質問いたしたと思いますけれども、せんだっての新聞に鴨川市の駅前にオープンするショッピングセンター、フローレ鴨川の中で、市民サービスセンターを開設する、このような記事が載ってありましたんですけれども、店舗の休業日には休みですけれども、祝日、日曜日、もう毎日午前10時から午後7時まで業務に当たると書かれております。そこには市民課の職員が1人派遣され、パートを1人使って住民票や戸籍、印鑑証明、母子健康手帳などの交付を行う。センターでは、夜7時まで業務をすると言われているわけです。受付時間は、午前10時から午後7時まで。ただし、市役所が閉庁になる午後5時から7時と、土曜日、日曜日、祝日は事前に市役所の市民課へ予約が必要である、このように言われて市民サービスの一環として出先機関を設ける、このように記事が載ってありました。これまた私も、一歩進んだすばらしいこの土曜閉庁に向かっての施策だなと思ったわけですけれども、先ほどもいろいろ紹介いたしましたけれども、このような問題に対してはいかが考えるのかなと思うんですけれども、その市民サービス

に対してフリーダイヤルで市の情報サービスを始めていったらどうか — こういうふうないろいろな催し物をその場でいつ何時でも聞けるわけです。そういうような方法とか、あるいは今例に出ていたようにこの鴨川市は外でやるんですけれども、館山市の場合にはそこまでいかなくても電話による住民票なんかの予約 — 住民票とか、印鑑証明の予約 — 住民票の予約をして、それで土曜、日曜に職員が当番でおられるようですからそこで受けとる、このような方法に関してはどのように思いますか。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 土曜閉庁等に伴います市民サービスでございます。いろいろ方法を他市等でもやっているわけでございます。そういうものも踏まえながら、これから窓口関係、特に市民課関係はやっていきたいというふうに考えています。

今議員さん御指摘のフリーダイヤル、そこらもこの庁内の検討の中の参考にさせていただきたいと思っております。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 脇田安保君。

◎9番（脇田安保君） ちょっと確認したいんですけれども、これは土曜閉庁が始まるときにこれを実施するということですか。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） ただいま検討中のものは、やはり土曜閉庁が始まるときに窓口の対応をどうするかというようなことをやっておりますので、その点で検討をいたしております。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 脇田安保君。

◎9番（脇田安保君） それと相呼応して、ぜひとも市民のサービスの低下にならないように、ぜひとも行っていただきたい、こう思います。

それで次に移りますけれども、健康カードについては、ほかのところでやっているの、それを見きわめたいということでもありますので、さらにまた努力をしていただきたい。また、千葉県においても、せんだっての県議会で

知事は調査、研究をすると。県もスタートしているようでありますので、館山もおくれないようにひとつお願いしたいと思います。

次に、学校5日制についてですが、これは我が千葉県の公明党で第1回の学校5日制のときに、12日の夕方アンケート調査をいたしました。そのときの調査項目が、学校5日制実施に対して小学生、中学生の親と、どのように過ごしましたか — 県内でアンケートを実施しましたが、これは県内の250人の小中学生と250人の両親を対象にしたものです。それで両親は大きく分けて3問質問しました。土曜日は子供とどのように過ごしますが1問で、2問目は子供との対話はできましたか。3問目は土曜日の過ごし方をより有効にするために望むことは何ですかと、これ親に質問いたしまして、それでやっぱり小中学生に対しても同様のことを質問いたしました。館山市においても、両親が30名、小学生25名、中学生20名に対して聞き取り調査をいたしました。

それで、県と市と同じような結果でありますけども、親の方では子供との触れ合いはなかったが、仕事なんかの関係で17名、56.6%が親子の触れ合いはなかった。子供との対話できたかということは、十分できた、大体できただけで46.6%、全くできない、十分できなかったが53%、半々でありました。土曜日の過ごし方をより有効にするために望むことは何ですかという親の質問に対しては、公共施設の無料開放、これは66.6%、遊びや文化教育施設等の整備ということで13.6%となっております。県内も同様に、親に対しては公共施設の無料開放は54.5%、遊び場や文化教育施設の整備が60%となっております。両親は特に小学生の遊び場を強く強調している — このアンケート調査から意識がとれるんですけども、これに対してはいろんな施設の開放はございますけども、どのようにこれからしていくのかお聞きしたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 福原教育長。

◎教育長（福原 修君） 貴重な資料をお知らせしていただいて感謝を申し上げます。初めての学校週5日制の実施でございまして、今度の学校週5日制のねらいは、学業に追われて、学校の行事等に追われて余裕のない子供た

ちが休みをとって、そして家庭で、あるいは地域でいろいろと生活体験をして、そして幾らかでもゆとりを持たせたい、こういうようなねらいでございまして、やはり一番の趣旨はやっぱり親子の語らいというのが私は大事なことかと思っておりますが、約半数以上がそういうことがなかったというお話でございますけれども、第1回でございますから、この学校週5日制の意義を今後とも学校を通じ、PTAを通じましてその趣旨が理解できますように努力をいたしたいと、このように考えております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 脇田安保君。

◎9番（脇田安保君） 時間もありませんので、ちょっとあれですけれども、先ほどのビデオの件なんですけれども、小冊子を全戸配布するということでもありますけれども、この点につきましては、私は小冊子でもよいと思います。ですけれども、これを早い時期に計画されて実現していただきたいと、このように思います。ビデオをつくるというのも本当に素晴らしいことなんですけれども、なかなかこれも大変な作業であります。やはり一刻も早い福祉の施策ということで小冊子をつくっていただきたいと思います。

ちょっと教育長の方にもう一つお聞きしたいんですけれども、この学校の土曜の休みに――これから週1回、2回、3回、毎週となってくると思うんですけれども、それに対してボランティアの体験、このようなことをちょっとどうかなのかなと。ボランティアの体験――例えば老人ホームとか老人福祉とかでボランティアの体験をするような――この土曜日の休みにそのような体験をしていくようなことについては、どのように思いますか。

◎議長（福原 勤君） 教育長。

◎教育長（福原 修君） 大変貴重な御意見と思っておりますが、児童、生徒の指導につきましては、また校長と十分協議をしなきゃいけませんので、そういうことにつきましても話し合いをしないと、こう考えております。

◎議長（福原 勤君） 以上で9番議員脇田安保君の質問を終わります。

暫時休憩いたします。

午後2時49分 休憩

午後3時07分 再開

◎議長（福原 勲君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

次、25番議員流山源次郎君。御登壇願います。

（25番議員流山源次郎君登壇）

◎25番（流山源次郎君） 本日の通告質問のしんがりを務めさせていただきます流山でございます。午前、午後ともに非常に発言もなく黙って座っておる皆さん方、心身ともに非常にお疲れのことと思いますが、どうか最後までおつき合いをお願いいたします。

私、自分の通告に入ります前にせっかくの機会でございますので、現庄司執行部を中心とする皆さん方の——私ども長い間議員として接しておりまして、今まで何度も何度も壁に突き当たってはね返されてしまった予算のせめて10%以上のものを組んでくれという要求と、それから国民健康保険の削減を何とかしてくれということで、20年の間壁に当たってはね飛ばされ、ようやくここにおきましてそれが実現したということは、非常に我々の話を執行部が十分かみしめて、ここになるまで非常に大きな苦労があったと思いますが、この点につきましては心から感謝するものでございます。ただ、執行部といたしましては——先ほど来も各同僚議員からいろいろお話がございましたとおり、文化ホールまたは橋上駅とか、東西の館山駅の開発問題等も非常に御苦勞をすることと思いますが、十分に市民の期待でございますので、よろしく願いいたしたいと思います。

まず、質問に入ります。道路問題を考えるという題で2点、市道以外の生活道及び利益者負担の軽減について、第2といたしましては、市道ランクの解消案についてを質問したいと思います。

私ども議員になりましたから、ちょうど22年の歳月が流れたわけですが、議員になりました当時から——その当時は、市道は市が5割、地元の負担が5割という線であったと思います。それで、幾たびかその当時、その当時の議員の皆さん方がせめて市民の、住民の負担を軽くしてもらいたいということで、今から10年ぐらい前にはようやく市道が地元負担がなくなって全面的に市で持つという線までなりましたが、それに準じまして里

道、生活道そういうものは一応機会あるごとに議員と市当局との話し合いによりまして市道に準じた線で減少していることは話し合いの過程にありまして、私の記憶するところでは、もう10年ぐらい前には市が8割の負担、地元は2割という線が確実になりまして、私はそれを実行して道路をつくった経験がございます。ところが、現在の同僚の議員の皆さん方の話を聞くと、いや流山そんなことないよ。今、市の負担は6、4とか、6.5か3.5だ。そんな変なこと言うなよという議員もございますが、事実はそういう線までもお互いに話し合ってきたのですが。先日も——ここに伊東部長さんがいらっしゃいますが、話ししたら、結局考えるのは歴代の建設課の課長さんなんかで、我々議員と長い間話し合ってきたそれを次の課長さんに申し伝えないということであるんじゃないかなと思って、それでなければもうお互いに話し合っ——文章にはならなかったんですが、お互いに話し合っ——とにかく生活道も里道も、みんな将来は市道並みに市が負担する線に持っていくというのが、22年間の長い間の今までの、市と議員間の暗黙のうちの話し合いがあったわけでございます。

ところが現在それが定かでなくて、皆さん方の中には地元の要望に応えまして、じゃ材料を支給してもらってやれよとか何とかという議員さんもいらっしゃるそうでございますが、この材料支給ということになりますと、材料支給は我々の通念の考えでは、今まで材料が10万すれば工事費が10万かかるわけですから、材料支給してもらった場合にはもう今度は半分に下がっちゃって、せっかく80まで我々がいったその市の負担金が50まで下がっていくという結果になるんじゃないかという、そういうこともございますが、これは一応議員と執行部とは、やはりお互いに腹を割ってここまで20年の長い間来たんですから、やはりこの線は考えていただきたいと思っております。その点につきまして、側溝はこの利益者負担の——現在昔と違いまして農道、里道とかそういうものは周りのうちがいっぱいできてしまって、今はこれが市道だ、これが農道と言っても何でそんなことがあるんだというような考えが多いと思いますが、そういった点で今早急に私がここへ立ったから、じゃあすから全面的に無料にするとか、8割にするとかというてことでなくして、

一応期間を置いて予算の関係等もございしますが、そういった線で市民のために頑張っていたきたいと思っております。

そういうわけで質問したわけでございまして、それから市道のランクの解消案について — これは今やはり伊東部長さんに市道のＡＢＣのランクということ、これはおかしいじゃないかと言ったら、伊東さん知らないと言うんですよ。わしはそんなこと言ったことない — そりゃそうなんです。わしも伊東さんの３代前の課長さんに話しして市道お願いしたら、今はＡＢＣで予算も苦しいんだから、ＡができてＢができて最後にＣなんだから、Ｃをやるといったら市道は無料でも材料支給で我慢してくれということを言われたんで、いまだに２０年の長い間わたって館山市道のＡＢＣのＣに関係する道はいまだにできていないということになると、２０年たっても同じ市道無料でも、ただＣに位するところはいまだに舗装もされなければ、どうもされていないという非常に不満がございします。何か非常に矛盾に感ずることは、固定資産税とか都市計画税というのは農道だ、里道だとか生活道だとかと一人前に扱ってもらえない人でも一人前に取られちゃって、そういうことを考えたらもう今の時代で農道とか、市道とか差別する人はないんじゃないかということで質問したわけでございします。

それから第２点の市民サービスの向上についてでございますが、これは先日私どもの大先輩でございます飯田議員さんが出雲市に参りまして、つぶさにそのときの状況を知らされまして、その結果をコピーしたものをいただきました。非常に市民サービスについては驚くべき — 我々ちょっと考えられないような成果を上げておるということを聞いたわけで、たまたま国が週休２日制になった。各市町村、地方自治体も週休２日制は当然の問題だと思ったわけでございしますが、そのときにその出雲方式というのは、もうこの市長就任されてから３年前に、国が始める前に、出雲市では週休２日制を実施した。結局は、市民の血税でおまえたち週休２日制にするんだから、それだけ市民にサービスをしろというような線で — 先ほど何か脇田議員さんの質問にありました鴨川市がジャスコに出張所をつくる、そういった話もありましたが、既に出雲市におきましては、大きな百貨店かスーパーかそこまではっ

きり確かめませんが、そこに出張して、2日制になったんだから、その分市民にサービスをしろということで実施をしておって、現在ではその周りの松江市とか、そういった市も週休2日制の先取りをやって同じようなことを進んでいるというような報告書もいただいたので、この際館山市もそういう問題が起こっておりますので、一応参考にして今後の方針に市民サービスとして実行していきたいと思っております。

とにかく、日本語というのはおもしろいもので、例えば「お」をつけると非常に尊敬する言葉なんですよね。「お水」とか「お酒」とか「お帰りなさい」とか、「お」をつけると非常に敬語になるすばらしい字とも思いますが、これが役所の上に「お」がついたら「お役所仕事」と、何か尊敬するどころか何か軽蔑するようなふうを受け取られて、これは日本の言葉の中でたった1つお役所仕事というのは、何か人に軽蔑されてかた苦しいというようなそういう感じがあると思うんですが、このお役所仕事を打ち破るのは出雲方式とかそういうもの、すばらしい参考があるので、これをぜひ市の執行部といたしましても、ようやく我々20年のはねつけられ、はねつけられたことを何とか取り入れてくれたものでございますので、これを実行していただきたいと思っております。

最後に、市の教育方針についての学校5日制について、父兄等の対話はどうなっているか。モデル教育の実施は考えないか。2は、現在、問題になっている学校給食について市教育委員会としての見通しはどうかという——ちょうど私が通告質問するときに、こういう問題が起こっておったので、そこに加えたわけでございますが、何か話に聞きますと学校週5日制、これは人事院勧告が一番最初だと思いますが、人事院勧告において、この学校の週5日制の問題の前に週休2日制の問題で最もおくれているのは学校と、それから国立病院であるという何か指摘がされたそうでございますが、聞くところによりますと経済界、また連合等の強い申し入れによって責任政党でございます自民党から文部省に圧力をかけたとか、申し入れたとか言っている——そういうような状態でございますので、市の教育委員会としても、非常に余りにも突然なことで驚いていると思いますが、この点につきまして大変でし

ょうが、将来の子供の教育と、そういうものについてよろしくお願ひしたいと思っております。

それで、2点目の市民サービスの向上についてのことでございますが、市内各町内会の軽減を図る考えはないかと—— ことを出しました。私、今議員と2足わらじを履いて区の区長をやっておるわけでございますが、例えば市または協議会関係が主体になります赤十字募金だとか、いろいろな募金がございます。これはもう当然仕方がないことでございますので、区としても全面的に協力しているわけでございますが、そのほかに常備消防以外に地元の消防がございます。また、防犯協力会等もございますが、これに対する後援会費という区に対する負担というのは非常に大きなものです。

それから、青少年相談員という組織が市に任命されてございますが、この青少年相談員が地区の子供に対しまして、今度キャンプをやるとか何をやるといってもみんな区に対して1万円の寄附をお願いしますとか、圧力というのは非常に後から後から来るわけでございまして、ところが区民というものは、区民の中にも皆さん御指摘のとおり市民税は、最低の人は2,000円で—— 年間2,000円納めればいいという最低を認められてあとは生活費だという人が、結局区に過半数はいるわけです。その方々がこれ以上値上げになると年間に2,000円で市民税は済んでいる、それが事実でございますが、それを1万も2万も区に取られてしまうということになると、これは何か考えようによっては市に関連した問題で増税の1つになるんじゃないかというようなこともございますし、また市の方で防犯灯をつくっていただきます。つくってもらふのはありがたいんですが、その維持費といたしまして、毎年区では電気料35万、40万ぐらいずつも払っておるというようなことを勘案した場合には、—— 現在消防団がみんな動めております。いざ火事というときにみんなすぐに出動するんですが、動めているところがちょっとわからないという場合には、何か携帯するもので火事の連絡を何とか、そういうものが欲しいということで、そういうもので後援会に買ってくれという線が出てきているということでございますが、公にそういうものを必要な場合には、大いに市の方としても考えて—— 今まで市の方としては、我々がこういうことは

もう少し削減してくれということをお願いいたしますと、市の方では一応貯水池を無料にしてくれたとか、消防自動車を無料にしてくれたとか、それは我々の要望によって市の方でも地元の負担を考えまして、協力してくれるわけですが、そういうことでございまして、地元にかかる負担の軽減ということをぜひお願いしたいと思っています。

それから、観光行政と大げさなことを書いたんですが、これは私は商工観光課に参りまして、船形の海岸等特に自動車からばい捨ての缶なんか非常に多いので、何か網かごの安いごみ箱でもいいから浜の一角に設置してくれ、そこにあれば——ごみ箱あればそこにゴミを捨てるからと何回もお願いしたんですが、そのお願いがごみ箱でなくて看板を持ってきて、そこに館山市と警察署と書いてあって、「ここはきれいにしてください」という看板で終わっちゃったんです。ところが、その書いてある看板の下に缶がいっぱい投げ捨てになっておるといふ、これでは何の効果もない。せめてかごがあれば自動車に乗ってきても自動車の中がいっぱいになるから、そういう入れ物の中に捨てるということになるんじゃないかと思いますが、ぜひこういったことで、市民に対するサービスという件で、ごみ箱を何か設置してもらえないかということでございます。

それから、結婚相談でございますが、午前中に小宮同僚議員からいろいろ結婚相談についてのお話もございました。議会のあるたびにどなたの議員さんが農業、または漁業に関するところの後継者に嫁さんがいないというような悩みを訴えておることを聞いております。この結婚相談員の制度そればかりで一方向的に押しつけるというのはよくないんですが、何かそういうものを解消するためにも、市の行政の一環として福祉協議会に委託してあっても、やはり結婚相談員というのは大事じゃないかということでございますので、市の方としてもよろしく結婚相談員、後継者等に配慮をいただけるよう切にお願いいたしまして、私としてこの壇上での質問終わりますが、せっかく議長さんからある程度時間をもらったんで、市に対してどうのこうのという問題じゃなくして、この際市の皆さんが集まっておるわけでございますので、何か2～3の質問したいと思っております。

どうもありがとうございました。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの流山議員の御質問にお答えいたします。

大きな第1の小さな第1点目、市道以外の生活関連道路の整備につきましては、町内会等の要望によりまして、整備に必要な生コンクリート・U字溝等を全額支給し、生活環境の整備を図っているところでございます。

現在、要望の強い市道の排水整備を優先的に実施しているところでございます。御質問の利益者負担の軽減につきましては、原材料支給により今後も対応してまいりたいと考えております。

なお、災害防止等、危険かつ緊急を要する箇所につきましては、市道整備とあわせ、整備を進めてまいりたいと考えております。

次に、小さな第2点目の市道ランクの解消についての御質問でございますが、現在市道の整備につきましては、交通量及び周辺の道路状況等を勘案いたしまして、緊急度の高いものから順次整備をしているところでございます。

次に、大きな第2、小さな第1点目の御質問でございますが、市民に直接対応いたします市民課関係につきましては、出雲市方式は貴重な御意見として承り、先ほど脇田議員の御質問にもございましたが、週休2日制によるサービス低下を来さないような方向で、館山市の実情に即した対応策を検討してまいりたいと考えております。

小さな第2点目、市内各区、町内会等の負担軽減を図る考えはないかとの御質問でございます。御質問のうち、消防関係費についてでございますが、現在市消防団の運営等につきましては、詰所及び防火水槽の建設、消防ポンプ自動車更新による購入、その他資器材等の費用は市が全額負担しております。

また、団員報酬、火災出動等の費用弁償につきましても、従来から引き上げを実施しているところでございますが、今後も他市町村の動向等を参考にしながら改善を図ってまいりたいと考えております。

次に、市防犯灯の電灯料についてでございますが、防犯灯の設置につま

しては、館山市防犯協力会におきまして、市からの補助金を財源として、設置者でございます各町内会、区等の要望に基づきまして、新規設置については1灯当たり1万5,000円を限度として補助をしております。これによりまして、平成3年度は30灯の補助をいたしました。設置後の維持管理につきましては、今後も要望者でございます各町内会、区等をお願いしたいと考えております。

また、防犯協力費につきましては、市から館山市防犯協力会に対しまして、事業費補助としまして100万円、さらに暴力団対策費補助としまして30万円の、合計130万円を補助しております。

次に、共同募金等で実施しております募金につきましては、各町内会等に御協力をいただいているところでございますが、募金は一応の目安を定めているものの強制的なものでなく、各個人、各人の善意の寄附でございますので、この点を御理解の上、今後とも御協力をお願いしたいと思います。

次に、小さな第3点目、観光行政のごみかご等の設置についての御質問でございますが、夏の海水浴場の開設中につきましては、快適な海水浴ができるよう、各海水浴場に合わせて25カ所ごみかご等を設置し、海浜美化に努めているところでございます。

御質問の海岸は、海水浴場区域外と思われますので、今後現状をよく調査しまして、検討させていただきたいと思っております。

次に、小さな第4点目、結婚相談員の活動状況についての御質問でございますが、先ほど小宮議員の御質問にお答えしたとおりでございます。館山市社会福祉協議会におきまして、結婚相談業務を実施しております。結婚を希望する者に対して毎月2回定期的に相談日を設けまして、相談員が交代でこの業務に当たっているとのことでございます。相談員の方には感謝申し上げているわけでございます。

このほか結婚を望む男女が集う「出会いの広場」、「若人の集い」を提供をするなど、積極的な活動をいただいております。

大きな第3、館山市の教育方針についての問題でございますが、教育長より御答弁申し上げます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 福原教育長。

（教育長福原 修君登壇）

◎教育長（福原 修君） 大きな第3、市の教育方針についての小さな第1点目、学校週5日制について父兄との対話はどうなっているかとの御質問でございますが、学校週5日制の導入は、近年の急激な社会の変化に対応するために学校、家庭及び地域社会の教育のあり方全体を見直し、子供が自ら考え、主体的に判断し、行動できる資質や能力を身につけることを目指すものであり、大変意義あるものと考えております。

この学校週5日制を円滑に推進するためには、家庭や地域社会での理解と協力が大変重要であります。今各学校において、保護者会やPTAでの研修及び研究協議、学校便り、学校週5日制のリーフレットの配布等により、できる限り保護者の理解を得るように努力いたしております。

次に、モデル教育の実施は考えないかとのことでございますが、文部省におきまして、既に月2回の土曜日を休業日とする学校週5日制の調査研究協力校を全国で642校指定して、その成果や問題点について実践的な研究を始めておりますので、館山市教育委員会としては、独自に調査研究校を指定する考えはございません。

次に、小さな第2点目、学校給食についての御質問でございますが、館山市教育委員会としては、従来どおり実施してまいりたいと考えております。

終わります。

◎議長（福原 勤君） 流山源次郎君。

◎25番（流山源次郎君） 建設部長に質問をお願いします。

実は、今ABCの問題を出しましたが、それは部長が知らないことですが、一応私はつい1カ月ほど前に、市道に直面しておる方で、側溝を何とかつけてもらいたいということを頼まれて建設課へ参ったわけでございます。そのときに建設課の職員の皆さん方の対応は、流山さん1年待ってくれ。来年だったら、これは市道ですから全面的に市でやるから負担はかけませんよという話だったんで、わしはいいことを聞いたということで、依頼し

た方に帰って、1年待ってくれ、そうすれば市道であるし、市で全面的に側溝をつけてくれるからという話をしたら、その方が、流山さん私もう何回もそれを繰り返しているんだ。実はそれは初めてじゃなくて、その道路に面して市道を市で全面的に途中まで工事を終わっているわけです。そのうちの2～3軒残っちゃったんですが、主要道路とかAとかBくらいの道路だったら1年たてばまた続いてそれをつくるということですが、C道でございますので、市の方でもう全然手をつけてくれない。自分の方でどうしても下水が必要だということをお願いしたんで、もう来年待てないから、そういう状態だから市は信用おけないから、材料支給でもいいからお願いしますということで、材料支給ということになったんですが、私ども今まで4～5年の常識では、材料が50万すれば工事費は50万だ。でも当人がそう言うから、一応市の意向を伝えただからこれはしょうがないということで受けたんですが、そういつて後で話を聞いたら、市の支給する材料の工事費がその2倍、今まで50％であったというのが今度は80％——2倍になってしまって、ですから結局市で材料支給したものが3割しかくれない。C道で3割の市道ということになると、市の公約は市道は全面的に市で見ますというのは、結局は3割しか市で支給しないというような結果が出ちゃったわけでございますが、こういうのを考えた場合に、やはりそういう市道——まあABCといっても、伊東部長さんはこういう問題は知らないんですから、答弁のしようもございませんが、市もわしが議員になってから22年この問題に取り組んでおりますので、ここらあたりで5カ年計画でもいい、何か計画何年間で、少しずつ、少しずつでもいいから市道にも目を向けていただきたいと思いますと思っておりますが、いかがでございますか。

◎議長（福原 勤君） 建設部長。

◎建設部長（伊東 衛君） まず、ABCランクですけれども、こういうことでございます。Aというのが、これは前々から聞いておるんですけれども、Aというのが緊急度の高いもの——これはいろいろあります。交通対策のものあるいは老朽化している、それからそこに雑排水処理が——雨水ができないものというのがあります。それから、それが終わると次がBランクという

ふうに聞いておるんですけれども、最後には、Ｃランクというのはそれが終わってからというような——それで前に辻田議員さんにも御説明したわけでございますけれども、要望ばかりじゃないんだと。市の建設課、もちろん都市計画もありますけれども、それに対して市そのものとしての計画がなきゃいけないんだという中で、そういった計画をしております。ただし、Ｃランクだからといってやらないということではございませんけれども、とりあえず優先順位を決めながら、各地区に分けて、たとえば優先順位であろうと——たとえば船形が全部優先だからといって船形やるわけにはいきませんので、全部の地区のバランスを考え、その中の優先順位を決めて対処しておるわけです。

それで、実はその負担割合ですけれども、昭和58年——これ前々の建設課長の時代にまで負担割合あったわけですが、私が引き継いだときにはもう負担割合がなくということで、市道については全部市でやろうというのが原則でございます。ただし、企業の開発であるとか、一個人のためにどうしてもといった場合には、それは材料交付あるいは企業の負担ということはありませんけれども、大部分のものについては市がやらせていただいております。それで、今もしておるわけですが、赤道については、これはとりあえず皆さんにお願いしておるわけですが、その中のうちで赤道あるいは生活道についても、これはもう市道に準ずるんだ、あるいは市道にしなければならぬんだというものについては、ここ数年積極的に市道に昇格というんですか、繰り上げて対処しておるわけですが、そんなことで、舗装率についてもなかなか上がらないというのは、実際は相当舗装しておるわけなんですけれども、その市道を繰り上げておるということでございます。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 流山源次郎君。

◎25番（流山源次郎君） よくわかりました。

助役さんをお願いしたいんですが、予算編成は正面は市長さんでございすが、一応助役さんを中心としての次年度の予算とかそういうものは行われ

ることは聞いておりますが、一応我々として努力して、一応建設課は建設課なんかでお願いして、それはやむを得ないだろう、必要だろうということで建設課なんかで予算計上あった場合には、なるべくそれを嫌うとかはねつけるとかでなくて、予算に組み込むように極力努力をしていただきたいと思います。

よろしくお願いします。

◎議長（福原 勤君） 小幡助役。

◎助役（小幡清之君） 地域の実情をよく知っているのは担当課でございますし、それを把握しているのは担当部長でございます。そこを通して、どうしても必要だというもので上がってきた場合には、これは私だけに限らず市長のところでも当然予算がついているはずでございます。

御理解いただきたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 流山源次郎君。

◎25番（流山源次郎君） これは一応どうということですが、実は先ほどお話いたしました出雲市の件でございますが、社団法人の日本能率協会というものがございまして、そこですばらしい日本全国のサービスの行き届いた会社とかそういうものを表彰しているわけですが、実はその中には国際的なソニーとかホンダ、トヨタ、資生堂、鹿島建設など日本を代表する、また国際的な大きな会社等が表彰対象の中に入っておるわけですが、そのトップに地方自治体でございます出雲市役所が、日本で一番サービスがいいんだという中のトップに名前が載ったということは、非常にこれは驚きであると同時に、私市長さんにもお願いしたいんですが、地方自治体がそういうトップになるということは、ひいては館山市も同じ地方自治体だということで市民サービスとか、そういうことに対して——大きいことは言いませんが、せめて安房郡じゅうで館山市が第1番のサービスがいいというようになるように、そのお考えをちょっとお聞かせいただきたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

◎市長（庄司 厚君） 全国の中にはすばらしい住民サービスをやっている

自治体があるということで、大いに参考にさせていただきたいと思います。
住民サービスが地方自治体の仕事でございますから、そのために打ち込む
のは当然でございます。大いに研究させていただきます。

ありがとうございました。

◎議長（福原 勤君） 流山源次郎君。

◎25番（流山源次郎君） ありがとうございました。

教育長にいつもお世話になっておりますが、一応座談的でございますので、
実は学校の週5日制でございますが、実はある記事でどこで読んだかちょっ
とど忘れしましたが、東北大学の学長でございます西澤潤一氏が、大脳とい
うのは継続的な刺激が必要なんだ。1日休むならとにかく、2日も続けて休
むとなると、遊んでいる子供は大脳が働かなくなってしまうというようなこ
とを発表しておりますが、何か週5日制の問題について2日も休みが続くとい
うことになる、そういったことはどうか。

それから、学校週5日制の対策委員会の答申を、私は教育長さんに断りな
くして教育委員会に申し入れましてお借りしたんでございますが、非常に各
学校とも真剣に学校週5日制の対策委員会の――またはデータを集めたり、
またこれからの教育制度はこうやっていかないかんということで、非常に真
剣に答申に盛られております。それを見て非常に私感心したのは、保護者の
60何%の方が週5日制になっても心配いらぬ。自分たちは子供たちを完全
に何とか面倒を見ましようというデータも上がっております。

それから、子供たちのアンケートも、週5日制になっても自分たちはいい
ということと言う子供は、やはり半数以上はあるということで、そのデータ
を見て非常に館山市の場合には心強いというものを感じたわけでございま
すが、ただ問題は、保護者が60%、あとの100%とした場合には40%残っちゃ
うんですが、恐らくこの40%の方は、週5日制になっても自分は働かねばい
かん、夫婦共稼ぎやらにゃいかんということで、恐らくうちにいないんじ
ゃないか。そのために太鼓判を押したということの線が出なかったんでしょ
うが、そういうことを考えますと、例えば先ほど演壇で話しました青少年相
談員の方が、子供をキャンプに連れていく、やれ何という、そういう行事が

恐らく地元によって大きな行事は、やはり子供の何といいますか、ただ遊ばしておくということじゃなくして、5日制を有効に使うためには、また地元の団体がそういった行事をもくろむんじゃないかということは、当然なんです。そのわりに、そのしわ寄せがまた区に来て、こういうわけだから負担金を出してくれというと、区はますます行き場のないものが出ちゃうんじゃないかという心配がございますが、こういう点につきましての教育委員会のお考えをお聞かせ願います。

◎議長（福原 勤君） 福原教育長。

◎教育長（福原 修君） お答えをいたします。

西沢学説とおっしゃるのでしょうか、お尋ねの学説につきましては、いろいろと参考にさせていただきたいと思っております。ただ、今度の学校週5日制の問題は、連休になるのは月に1回でございます。そしてまた、なぜそういうものが生まれてきたかという、先ほども述べたんでございますけども、子供たちは逆に学校のスケジュール、学習活動等で追われている。暇があれば塾へ行っちゃう。あるいは何かあって少年スポーツで追われている、こういうことで非常にゆとりがないので、自分で考える能力が落ちてきている。でありますから、自由になって、そして自分で考え、自分で判断していく。そうすることが大事なことじゃないのかというようなところから出発いたしておるわけでございまして、これからの変転目まぐるしいこういう社会の中で生きていくには、どうしてもすべてに教わっていくということじゃなくて、その変化に対応して自分の能力を生かしていくというような教育が必要ではないのだろうかというような考え方に立っているわけでございます。でありますから、私は学校週5日制は非常にいいのではないかなと考えております。

ただ、120年来の学制改革であります。今まで学校というのは6日勉強するんだと、こういうようなものであったのが今度変わっていくわけでございますから、本年度は月1回でございますけども、これから月2回とか伸びていくかもしれませんから、そういうようなこの大変革に相応するためには、保護者の方々あるいは地域社会の方々、あるいは地域のたくさんの方々に御

了解をいただかないと。先ほどの市役所の週5日制の問題と同じような問題でございまして、やはり各関係者の了解を得た上で実施していかなきゃならないということが一番大事なポイントじゃないか、こう考えております。

したがいまして、私たちとしては先ほど申したとおり、理解をいただくというように懸命な努力をさせていただいてきております。今度この問題を実施するに当たりまして、どうしても手が無い。学校に頼らざるを得ないというのを調査をいたしました。出てまいりましたのは、船形小学校は最初5名、その後2名、那古小学校は6名であったかと思えます。それから、北条小学校が17名、館山小学校8名、こういうふうに出てまいりました。ほかの学校はそういう人は要らない、指導者は要らない、みんな自分のうちで面倒を見る、こういうことになりまして、4校だけが問題になりまして——この12日に私も実際行ってきましたならば、2名であったはずの船形小学校が3名来ておりました。それから、那古小学校は6名のところが16名来ておりました。北条小学校は数は把握できませんでした。これは中央公民館に行って映画の鑑賞を行ったのでございまして、その映画を見ておりましたから、多分そこに行ったんじゃないかなと思っておりますが。館山小学校は8名、これもっと多くなったような感じがいたしておりますが、割合に家庭の方で子供を引き取っていただいて、そしてスムーズに終わった。最初の1日目は無事終わった、こういうような感じを受けてございます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 流山源次郎君。

◎25番（流山源次郎君） ありがとうございます。実は、自分もこの学校5日制の問題で、東京の芸大ではもう3年ぐらい前から毎週休みということで5日制の、やはり今教育長さんがおっしゃった文部省からの姿勢で、それを実験としてやっておると思いますが、自分のごく近い身内は、1人は地元の東京の小学校に入れまして、1人はその芸大の何か試験が受かったということで入ったんですが、その親が5日しかないんだからその土曜日の日には学校から宿題が出てきてやるんだと思ったら何も宿題も出さない。夏休みの宿題も出さないそうです。ところが、地元の学校に行っている子と週5日

制になっている子を見ていくと、週5日制の子供の方が能率がものすごくいいらしいということを聞いたんですが、これはひとつのやはり驚きだなということを感じたわけですが、どうか今後とも学校教育につきましては、よろしく御指導お願いしたいと思います。

以上をもちまして私の質問を終わります。

◎議長（福原 勤君） 以上で25番議員流山源次郎君の質問を終わります。

延 会 午後3時56分

◎議長（福原 勤君） お諮りいたします。

本日の会議はこれにて延会いたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（福原 勤君） 御異議なしと認めます。よって、本日はこれにて延会することに決しました。

次会は明17日午前10時開会とし、その議事は本日に引き続き通告による行政一般質問を行います。

この際申し上げます。一般議案、補正予算に対する質疑通告の締め切りは17日正午でありますので、申し添えます。

◎本日の会議に付した事件

1 行政一般通告質問